

学校コード F145310111583

注3

設置年度 令和 2年度

計画の区分： 学部の学科の設置

注1

届出

注2

九州保健福祉大学 臨床心理学部 臨床心理学科

【届出】設置に係る設置計画履行状況報告書

学校法人順正学園
令和4年5月1日現在

作成担当者

担当部局（課）名

職名・氏名

ソウゴウキカクフサンジ オオウチモヒロ
総合企画部参事 大内知洋

電話番号

086-231-3613

（夜間）

086-231-3613

e-mail

kikaku@kiui.ac.jp

(注) 1 「計画の区分」は設置時の基本計画書「計画の区分」と同様に記載してください。

2 大学院の場合は、表題を「〇〇大学大学院・・・」と記入してください。

設置時から対象学部等の名称変更があった場合には、表題には現在の名称を記載し、その下欄に（ ）書きにて、設置時の旧名称を記載してください。

例) 〇〇大学 △△学部 □□学科

(旧名称：◇◇学科(平成◇◇年度より学科名称変更))

表題は「計画の区分」に従い、記入してください。

例)

- 大学の設置の場合：「〇〇大学」
- 学部の設置の場合：「〇〇大学 △△学部」
- 学部の学科の設置の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科」
- 短期大学の学科の設置の場合：「〇〇短期大学 △△学科」
- 大学院設置の場合：「〇〇大学大学院」
- 大学院の研究科の設置の場合：「〇〇大学大学院 〇〇研究科」
- 大学院の研究科の専攻の設置等の場合：「〇〇大学大学院 〇〇研究科 〇〇専攻(修士課程)」
- 通信教育課程の開設の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科(通信教育課程)」

3 学校コードについては、以下URLを確認の上、該当番号を記載してください。

なお、該当がない場合は、本番号は学校基本調査での「学校コード」と同様の番号ですので、当該番号を記載してください。

https://www.mext.go.jp/b_menu/toukei/mext_01087.html

目次

臨床心理学部

＜臨床心理学科＞	ページ
1. 調査対象大学等の概要等	3
2. 授業科目の概要	7
3. 施設・設備の整備状況、経費	17
4. 既設大学等の状況	18
5. 教員組織の状況	20
6. 附帯事項等に対する履行状況等	35
7. その他全般的事項	36

1 調査対象大学等の概要等

(1) 設置者

学校法人順正学園

(2) 大学名

九州保健福祉大学

(3) 調査対象大学等の位置

〒882-8508
宮崎県延岡市吉野町1714-1

- (注) ・対象学部等の位置が大学本部の位置と異なる場合、本部の位置を()書きで記入してください。
・対象学部等が複数のキャンパスに所在する場合には、複数のキャンパスの所在地をそれぞれ記載してください。

(4) 管理運営組織

職名	設置時	変更状況	備考
理事長	(カケ ミヤコ) 加計 美也子 (平成13年1月)	(カケ ユウキ) 加計 勇樹 (令和2年6月)	任期満了による変更(3)
学長	(タカサキ マユミ) 高崎 真弓 (平成30年4月)	(コダマ オサム) 兒玉 修 (令和2年4月)	任期満了による変更(3)
学部長	(クラウチ ノリコ) 倉内 紀子 (令和2年4月)		
学科長等	(マエダ ナオキ) 前田 直樹 (令和2年4月)		

- (注) ・「変更状況」は、変更があった場合に記入し、併せて「備考」に変更の理由と変更年月日、報告年度を()書きで記入してください。

(例) 令和3年度に報告済の内容 → (3)
令和4年度に報告する内容 → (4)

- ・昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更があれば、「変更状況」に赤字にて記載(昨年度までに報告された記載があれば、そこに赤字で見え消し修正)するとともに、上記と同様に、「備考」に変更理由等を記入してください。
- ・大学院の場合には、「職名」を「研究科長」等と修正して記入してください。
- ・大学独自の職名を設けていて当該職位がない場合は、各職に相当する職名の方を記載してください。

(5) 調査対象学部等の名称、定員、入学者の状況等

- (注) ・ 当該調査対象の学部・学科または研究科の専攻等、定員を定めている組織ごとに記入してください（入試区分ごとではありません）。
- ・ なお、課程認定等によりコースや専攻に入学定員を定めている場合は、法令上規定されている最小単位（大学であれば「学科」、短期大学であれば「専攻課程」）のほか、それらのコースや専攻単位でも記載したものを、別ファイルにて提出してください（作成方法は、事務連絡「令和4年度の履行状況報告書の提出について（依頼）」を確認してください）。
- ・ 様式は、平成30年度開設の4年制の学科の完成年度を越えて報告する場合（令和4年度までの5年間）ですが、完成年度を越えている場合は別途ご連絡ください。
- ・ 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格（いわゆる「留学ビザ」）により、我が国の大学（大学院を含む。）、短期大学、高等専門学校、専修学校（専門課程）及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
- ・ 短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。

(5) - ① 調査対象学部等の名称等

調査対象学部等の名称（学位）	学位又は学科の分野	設置時の計画				学生募集の停止について	備考
		修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員		
臨床心理学部 臨床心理学科 学士（臨床心理）	社会学・社会福祉学関係 保健衛生学関係 （リハビリテーション関係） 文学関係	4 年	40 人	- 人	160 人		

- (注) ・ 定員を変更した場合は、「備考」に変更前の人数、変更年月及び報告年度を（ ）書きで記入してください。
- ・ 基礎となる学部等がある場合には、「備考」に基礎となる学部等の名称を記入してください。
- ・ 「学位又は学科の分野」には、「認可申請書」又は「設置届出書」の「教育課程等の概要（別記様式第2号（その2の1）」の「学位又は学科の分野」と同様に記入してください。
- ・ 学生募集停止を予定している場合は、「学生募集の停止について」で「新規入学者を募集停止予定」を選択するとともに、「備考」に「令和〇年度から学生募集停止（予定）」と記載してください。

(5) - ② 調査対象学部等の入学者の状況

区分	平成30年度		令和元年度		令和2年度		令和3年度		令和4年度		平均入学定員超過率	開設年度から報告年度までの平均入学定員超過率	備考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期			
A 入学定員	() []	() []	() []	() []	40 (-) [-]	(-) [-]	40 (-) [-]	(-) [-]	40 (-) [-]	(-) [-]	0.94倍	-	
志願者数	() []	() []	() []	() []	108 (-) [-]	(-) [-]	118 (-) [-]	(-) [-]	82 (-) [-]	(-) [-]			
受験者数	() []	() []	() []	() []	107 (-) [-]	(-) [-]	112 (-) [-]	(-) [-]	81 (-) [-]	(-) [-]			
合格者数	() []	() []	() []	() []	104 (-) [-]	(-) [-]	95 (-) [-]	(-) [-]	71 (-) [-]	(-) [-]			
B 入学者数	() []	() []	() []	() []	48 (-) [-]	(-) [-]	33 (-) [-]	(-) [-]	32 (-) [-]	(-) [-]			
入学定員超過率 B/A					1.2		0.82		0.8				

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。（過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。）
- ・ () 内には、編入学の状況について外数で記入してください。なお、編入学を複数年次で行っている場合には、(())書きとするなどし、その旨を「備考」に付記してください。該当がない年度には「-」を記入してください。
- ・ 転入学生は記入しないでください。
- ・ []内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。
- ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期（春季入学以外の学期区分を設けている場合）に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「-」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
- ・ 「入学定員超過率」については、各年度の春季入学とその他の学期を合計した入学定員、入学者数で算出してください。なお、計算の際は小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで記入してください。
- ・ 「平均入学定員超過率」には、開設年度から報告年度までの入学定員超過率の平均を記入してください。計算の際は「入学定員超過率」と同様にしてください。なお、完成年度を越えて報告書を提出する大学等は、報告年度（令和4年度）から起算した修業年限に相当する期間の入学定員超過率の平均を記載してください。
- ・ 「開設年度から報告年度までの平均入学定員超過率」は、完成年度を越えて報告書を提出する大学等のみ記入してください。完成年度を越えていない場合は「-」を記入してください。

(5) - ③ 調査対象学部等の在学者の状況

対象年度 学 年	平成30年度		令和元年度		令和2年度		令和3年度		令和4年度		備 考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	
1年次	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	48 [-] (-)	- [-] (-)	36 [-] (-)	- [-] (-)	32 [-] (-)	- [-] (-)	令和3年4月1日付で薬学部薬学科より、1名2年次に転学科 令和3年4月1日付で薬学部薬学科より、2名1年次に転学科 令和3年4月6日付で生命医科学部生命医科学科より、1名1年次に転学科
2年次	/		[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	[-] (-)	[-] (-)	[-] (-)	[-] (-)	
3年次	/		/		[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	[-] (-)	[-] (-)	
4年次	/		/		/		[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	
計	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	48 [-] (-)	- [-] (-)	83 [-] (-)	- [-] (-)	115 [-] (-)	- [-] (-)	

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ []内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年度には「-」を記入してください。
 - ・ ()内には、留年者の状況について、内数で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。
 - ・ 編入学生や転入学生も含めて記入してください。その際、備考欄に人数の内訳を記入してください。
 - ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。春季入学の実施の場合は、その他の学期欄は「-」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
 - ・ 「計」については、各年度の春季入学とその他の学期を合計した在学者数、留学生数を記入してください。

(5) - ④ 調査対象学部等の退学者等の状況

区分 対象年度	在学者数(b)	退学者数(a)	内訳			主な退学理由 (留学生の理由は[]書き)
			入学した年度	退学者数		
				うち留学生数		
平成30年度	人	人	平成30年度	人	人	
令和元年度	人	人	平成30年度	人	人	
			令和元年度	人	人	
令和2年度	48人	2人	平成30年度	人	人	
			令和元年度	人	人	
			令和2年度	2人	0人	心神耗弱、進路変更(他の教育機関)
令和3年度	83人	2人	平成30年度	人	人	
			令和元年度	人	人	
			令和2年度	1人	0人	進路変更(他の教育機関)
			令和3年度	1人	0人	心神耗弱
令和4年度	115人	0人	平成30年度	人	人	
			令和元年度	人	人	
			令和2年度	人	0人	
			令和3年度	人	0人	
			令和4年度	人	0人	
合計		4人		2人	0人	

(注)・数字は、報告年度の5月1日現在の数字を記入してください。

- ・各対象年度の在学者数については、対象年度の人数を記入してください。(在学者数から退学者数を減らす必要はありません。)
- ・内訳については、退学した学生が入学した年度ごとに記入してください。また、留学生数欄の人数については、退学者数の内数を記入してください。
- ・在学者数、退学者数には編入学生や転入学生も含めて記入してください。
- ・「主な退学理由」は、下の項目を参考に記入してください。その際、「就学意欲の低下(○人)」というように、その人数も含めて記入してください。
(記入項目例)・就学意欲の低下 ・学力不足 ・他の教育機関への入学・転学 ・海外留学
・就職 ・学生個人の心身に関する事情 ・家庭の事情 ・除籍 ・その他

(5) - ⑤ 調査対象学部等の年度ごとの退学者の割合

【平成30年度】

$$\frac{\text{平成30年度の退学者数(a)}}{\text{平成30年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{0} = \boxed{\#DIV/0!} \%$$

【令和元年度】

$$\frac{\text{令和元年度の退学者数(a)}}{\text{令和元年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{0} = \boxed{\#DIV/0!} \%$$

【令和2年度】

$$\frac{\text{令和2年度の退学者数(a)}}{\text{令和2年度の在学者数(b)}} = \frac{2}{48} = \boxed{4.16} \%$$

【令和3年度】

$$\frac{\text{令和3年度の退学者数(a)}}{\text{令和3年度の在学者数(b)}} = \frac{2}{83} = \boxed{2.4} \%$$

【令和4年度】

$$\frac{\text{令和4年度の退学者数(a)}}{\text{令和4年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{115} = \boxed{0} \%$$

(注)・小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

2 授業科目の概要

<臨床心理学部 臨床心理学科>

(1) -① 授業科目表

【認可時又は届出時】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
大学共通基礎科目	英語 I	1前		2				1				
	英語 II	1後		2				1				
	情報処理入門	1後		2								1
	情報処理演習	2前		2								1
	キャリア教育	2後		2		1						
	コミュニケーション論	1後		2								1
	QOLと人間の尊厳	1前	2									1
	日向国地域論	1後		2		1						
	国際保健福祉論	2前		2		1						
	ボランティア活動	1通		2								1
学部共通基礎科目	英語コミュニケーション	2前		2				1				
	中国語 I	1前		2								1
	中国語 II	1後		2								1
	日本語 I	1前		2								1
	日本語 II	1後		2								1
	日本語 III	2前		2								1
	日本語 IV	2後		2								1
	日本語総合講座 I a	1前		2								1
	日本語総合講座 I b	1後		2								1
	日本語総合講座 II a	1前		2								1
	日本語総合講座 II b	1後		2								1
	哲学	1後		2		1						
	倫理学	2後		2		1						
	社会学	1前		2								1
	日本国憲法	2前		2								1
経済学	2前		2								1	
生物学	1後		2								1	
インターンシップ I	1後		1								1	
インターンシップ II	2前		1								1	
インターンシップ III	2後		1								1	
健康科学論	1後		2								1	
生涯スポーツ論	1前		2								1	
生涯スポーツ実習 I	1前		1								1	
生涯スポーツ実習 II	1後		1								1	
基礎演習 I	1前	1			6	3	3					
基礎演習 II	1後	1			6	3	3					
小計(36科目)	—	4	61	0	6	3	3	0	0	0	12	
専門基礎科目	社会福祉学	1後		2		1						
	心理学概論	1前		2		1						
	臨床心理学概論	1後		2		1						
	心理学研究法	1後		2								1
	心理学統計法	1前		2								1
	臨床医学	2前		2								1
	解剖学	1後		2								1
	生理・病理学	2後		2								1
	人体の構造と機能及び疾病	1後		2								2
	発達心理学	1前		2								1
	知覚・認知心理学	2前		2				1				
	学習・言語心理学	2前		2		1						
	心理測定法演習	3前		1				1				
	精神疾患とその治療	2前		2								1
	医療統計学演習	2前		2			1					
小計(15科目)	—	4	25	0	2	1	1	0	0	0	8	

【令和4年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
大学共通基礎科目	英語 I	1前		2					1			
	英語 II	1後		2					1			
	英語	1前		2								1
	英語コミュニケーション	1後		2								1
	情報処理入門	1前	2									1
	情報処理演習	2前		2								1
	データサイエンス I	1後		1								1
	データサイエンス II	1後		1								1
	キャリア教育	2後		2		1						
	コミュニケーション論	1後		2								1
	QOLと人間の尊厳	1前	2									1
	日向国地域論	1後		2		1						
	国際保健福祉論	2前		2		1						
	ボランティア活動	1通		2								1
	日向国地域体験学習	1通		1		1						5
医療・福祉連携講座	1通		1		1			1			15	
インターンシップ	1通		1								1	
学部共通基礎科目	英語コミュニケーション	2前		2					1			
	中国語 I	1前		2								1
	中国語 II	1後		2								1
	日本語 I	1前		2								1
	日本語 II	1後		2								1
	日本語 III	2前		2								1
	日本語 IV	2後		2								1
	日本語総合講座 I a	1前		2								1
	日本語総合講座 I b	1後		2								1
	日本語総合講座 II a	1前		2								1
	日本語総合講座 II b	1後		2								1
	哲学	1後		2		1						
	倫理学	2後		2		1						
	社会学	1前		2								1
	日本国憲法	2前		2								1
経済学	2前		2								1	
生物学	1後		2								1	
インターンシップ I	2前		1								1	
インターンシップ II	2後		1								1	
インターンシップ III	2後		1								1	
健康科学論	1後		2								1	
生涯スポーツ論	1前		2								1	
生涯スポーツ実習 I	1前		1								1	
生涯スポーツ実習 II	1後		1								1	
基礎演習 I	1前	1			5	4	2					
基礎演習 II	1後	1			5	4	2					
小計(36科目)	—	6	57	0	5	4	2	0	0	0	27	
専門基礎科目	社会福祉学	1後		2		1						
	心理学概論	1前		2		1						
	臨床心理学概論	1後		2		1						
	心理学研究法	1後		2					1			1
	心理学統計法	1前		2								1
	臨床医学	2前		2								1
	解剖学	1後		2								1
	生理・病理学	2後		2		1						1
	人体の構造と機能及び疾病	1後		2								1
	発達心理学	1前		2								1
	知覚・認知心理学	2前		2				1				
	学習・言語心理学	2前		2		1						
	心理測定法演習	3前		1					1			
	精神疾患とその治療	2前		2								1
	医療統計学演習	2前		2			1		1			
小計(15科目)	—	4	25	0	3	1	1	0	0	0	6	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任			
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手				
公認心理師系科目	公認心理師の職責	4前	2			1								
	感情・人格心理学	3後	2										1	
	神経・生理心理学	2後	2										1	
	社会・集団・家族心理学	1後	2			1								
	障害者・障害児心理学	2後	2										1	
	心理的アセスメント	2後	2			1								
	心理学的支援法	3前	2			1								
	健康・医療心理学	3前	2											1
	福祉心理学	3後	2											1
	教育・学校心理学	3前	2			1								
	司法・犯罪心理学	3後	2			1								
	産業・組織心理学	3後	2											1
	心理学実験	2通	2			1								
	心理演習Ⅰ	3前	1			1								
心理演習Ⅱ	3後	1			1									
心理実習	4通	2			1	2								
関係行政論	4前	2											1	
小計(17科目)	—	2	30	0	1	2	1	0	0	0	0	0	6	
社会福祉系科目	児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度	1前	2											1
	障害者に対する支援と障害者自立支援制度	1後	2											1
	高齢者に対する支援と介護保険制度Ⅰ	1前	2											1
	高齢者に対する支援と介護保険制度Ⅱ	1後	2											1
	相談援助の基盤と専門職Ⅰ	1前	2											1
	相談援助の基盤と専門職Ⅱ	1後	2											1
	現代社会と福祉Ⅰ	1前	2			1								
	現代社会と福祉Ⅱ	1後	2			1								
	低所得者に対する支援と生活保護制度	2前	2											1
	地域福祉の理論と方法Ⅰ	2前	2											1
	地域福祉の理論と方法Ⅱ	2後	2											1
	社会保障Ⅰ	2前	2											1
	社会保障Ⅱ	2後	2											1
	相談援助の理論と方法Ⅰ	2前	2											1
	相談援助の理論と方法Ⅱ	2後	2											1
	相談援助の理論と方法Ⅲ	3前	2											1
	相談援助の理論と方法Ⅳ	3後	2											1
	権利擁護と成年後見制度	2後	2											1
	社会調査の基礎	2後	2											1
	保健医療サービス	3前	2											1
	福祉行政と福祉計画	3前	2											1
	就労支援サービス	3前	1											1
	福祉サービスの組織と運営	3後	2											1
	更正保護制度	3後	1											1
相談援助演習Ⅰ	2前	1											3	
相談援助演習Ⅱ	2後	1											3	
相談援助演習Ⅲ	3前	1											3	
相談援助演習Ⅳ	3後	1											3	
相談援助演習Ⅴ	4前	1											3	
相談援助実習指導Ⅰ	2後	1											7	
相談援助実習指導Ⅱ	3前	1											7	
相談援助実習指導Ⅲ	3後	1											7	
相談援助実習	3前	4											7	
小計(33科目)	—	2	56	0	1	0	0	0	0	0	0	0	15	
言語聴覚療法専門科目	リハビリテーション医学	3前	2											4
	耳鼻咽喉科学	2後	2					1						1
	臨床歯科医学・口腔外科学	3前	2			1								
	聴覚・発声発話系の構造、機能、病態	2前	2											1
	神経系の構造、機能、病態	2前	2			2								
	言語学	1後	2					1						
	音声学	2前	2			1			1					
	音響学・聴覚心理学	3前	2											1
	言語発達学	1後	2					1						
	リハビリテーション概論	1後	1					1						
	公衆衛生学	4前	2			1								
	言語聴覚障害総論	1後	2			4			2					1
言語聴覚障害診断学	2前	2					1	2						

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任			
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手				
公認心理師系科目	公認心理師の職責	4前	2						1					
	感情・人格心理学	3後	2											3
	神経・生理心理学	2後	2											1
	社会・集団・家族心理学	1後	2						1					
	障害者・障害児心理学	2後	2						1					4
	心理的アセスメント	2後	2						1					
	心理学的支援法	3前	2						1					
	健康・医療心理学	3前	2											1
	福祉心理学	3後	2											1
	教育・学校心理学	3前	2						1					
	司法・犯罪心理学	3後	2						1	1				
	産業・組織心理学	3後	2											1
	心理学実験	2通	2						1					
	心理演習Ⅰ	3前	1						1					
心理演習Ⅱ	3後	1						1						
心理実習	4通	2						1	2					
関係行政論	4前	2											1	
小計(17科目)	—	2	30	0	1	3	1	0	0	0	0	0	7	
社会福祉系科目	児童・家庭福祉	1前	2											1
	障害者福祉	1後	2											1
	高齢者福祉	1後	2											1
	介護概論	2前	2											1
	ソーシャルワークの基盤と専門職Ⅰ	1前	2											1
	ソーシャルワークの基盤と専門職Ⅱ	1後	2											1
	社会福祉の原理と政策Ⅰ	1前	2			1								
	社会福祉の原理と政策Ⅱ	1後	2			1								
	貧困に対する支援	2前	2											1
	地域福祉と包括的支援体制Ⅰ	2前	2											1
	地域福祉と包括的支援体制Ⅱ	2後	2											1
	社会保障Ⅰ	2前	2											1
	社会保障Ⅱ	2後	2											1
	ソーシャルワークの理論と方法Ⅰ	2前	2											1
	ソーシャルワークの理論と方法Ⅱ	2後	2											1
	ソーシャルワークの理論と方法Ⅲ	3前	2											1
	ソーシャルワークの理論と方法Ⅳ	3後	2											1
	権利擁護を支える法制度	2後	2											1
	社会福祉調査の基礎	3前	2											1
	保健医療と福祉	3前	2											1
	福祉行政と福祉計画	3前	2											1
	就労支援サービス	3前	1											1
	福祉サービスの組織と運営	3後	2											1
	刑事司法と福祉	3後	2											1
ソーシャルワーク演習Ⅰ	2前	1											3	
ソーシャルワーク演習Ⅱ	2後	1											2	
ソーシャルワーク演習Ⅲ	3前	1											3	
ソーシャルワーク演習Ⅳ	3後	1											3	
ソーシャルワーク演習Ⅴ	4前	1											3	
ソーシャルワーク実習指導Ⅰ	2後	1							1				6	
ソーシャルワーク実習指導Ⅱ	3前	1							1				6	
ソーシャルワーク実習指導Ⅲ	3後	1							1				6	
ソーシャルワーク実習Ⅰ	2後	2							1				6	
ソーシャルワーク実習Ⅱ	3前	4							1				6	
小計(32科目)	—	2	56	0	1	1	0	0	0	0	0	0	15	
言語聴覚療法専門科目	リハビリテーション医学	3前	2											4
	耳鼻咽喉科学	2後	2								1			1
	臨床歯科医学・口腔外科学	3前	2			1								
	聴覚・発声発話系の構造、機能、病態	2前	2											2
	神経系の構造、機能、病態	2前	2			2								3
	言語学	1後	2						1					1
	音声学	2前	2			1				1				1
	音響学・聴覚心理学	3前	2											1
	言語発達学	1後	2						1					
	リハビリテーション概論	1後	1						1					
	公衆衛生学	4前	2			1								
	言語聴覚障害総論	1後	2			4			2					1

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼担
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
言語聴覚療法専門科目	失語症学Ⅰ	2前	2		1						
	失語症学Ⅱ	2後	2		1						
	高次脳機能障害学	3前	2		1					1	
	言語発達障害学Ⅰ	2前	2				1			1	
	言語発達障害学Ⅱ	2後	2				1			2	
	言語発達障害学演習Ⅰ	3前	1				1				
	言語発達障害学演習Ⅱ	3後	1				1			2	
	発声発語障害学	2前	2		1					2	
	発声発語障害学演習Ⅰ	2後	1		2					1	
	発声発語障害学演習Ⅱ	3前	1		2						
	嚥下障害学Ⅰ	2後	2		1					1	
	嚥下障害学Ⅱ	3前	2		2						
	嚥下障害学演習	3後	1		1					2	
	聴覚障害学Ⅰ	2前	2		1						
	聴覚障害学Ⅱ	2後	2		1		1				
	聴覚検査演習	3後	1				1				
	補聴器・人工内耳	3後	2		1					1	
	言語聴覚障害演習Ⅰ	2後	1		4	1	3				
	言語聴覚障害演習Ⅱ	3前	1		4	1	3				
言語聴覚障害演習Ⅲ	3後	1		4	1	3					
学外評価臨床実習	3後	4		4	1	3					
学外総合臨床実習	4前	8		4	1	3					
小計(35科目)	—	2	66	0	4	1	3	0	0	16	
専門分野関連科目	動物人間関係学	1前	2			1					
	動物生態学	1後	2							1	
	動物介在教育学	2後	2			1					
	アニマルセラピー概論	2前	2			1					
	アニマルセラピー演習Ⅰ	3前	1			1					
	アニマルセラピー演習Ⅱ	3後	1			1					
	動物適正飼養・トレーニング学	2前	2							1	
	動物トレーニング実習	2後	1							1	
	教育心理学	3前	2			1					
	教育相談	3後	2			1					
	心理尺度検査法実習	4前	1		1						
	キャリアアカウンティング	4前	2		1						
	レクリエーション論	2前	2							1	
	レクリエーション実技	2後	1							1	
	福祉住環境論	4前	2							1	
	スクールソーシャルワーク論	3前	2		1					1	
	スクールソーシャルワーク演習	3後	1		1					1	
	医療ソーシャルワーク論	3後	2							2	
	チーム医療概論	3後	2							2	
医療ソーシャルワーク実習指導	4前	1							1		
医療ソーシャルワーク実習	4前	1							1		
時事福祉学	4前	2							5		
連携実践演習	4前	1							1		
認知症の理解Ⅰ	3前	2							1		
認知症の理解Ⅱ	3後	2							1		
小計(25科目)	—	2	39	0	2	2	0	0	0	12	
総合科目	基礎ゼミⅠ	2前	2			2	3	2			
	基礎ゼミⅡ	2後	2			2	3	2			
	専門ゼミⅠ	3前	2			6	3	3			
	専門ゼミⅡ	3後	2			6	3	3			
	専門ゼミⅢ	4前	2			6	3	3			
	専門ゼミⅣ	4後	2			6	3	3			
	小計(6科目)	—	12	0	0	6	3	3	0	0	
合計(167科目)	—	28	277	0	6	3	3	0	0	51	
卒業要件及び履修方法											
基礎科目の中から必修科目4単位を含む24単位以上、専門教育科目から必修科目24単位を含む100単位以上を修得し、124単位以上修得すること。 (履修科目の登録の上限:49単位(年間))											

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼担
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
言語聴覚療法専門科目	失語症学Ⅰ	2前	2		↓	1					
	失語症学Ⅱ	2後	2		↓	1					
	高次脳機能障害学	3前	2		↓					1	
	言語発達障害学Ⅰ	2前	2						1	1	
	言語発達障害学Ⅱ	2後	2						1	2	
	言語発達障害学演習Ⅰ	3前	1						1		
	言語発達障害学演習Ⅱ	3後	1						1	3	
	発声発語障害学	2前	2		↓	1				3	
	発声発語障害学演習Ⅰ	2後	1		1					2	
	発声発語障害学演習Ⅱ	3前	1		1	1					
	嚥下障害学Ⅰ	2後	2		1					3	
	嚥下障害学Ⅱ	3前	2		1	1					
	嚥下障害学演習	3後	1		↓	1				1	
	聴覚障害学Ⅰ	2前	2		1				1		
	聴覚障害学Ⅱ	2後	2		1				1		
	聴覚検査演習	3後	1						1		
	補聴器・人工内耳	3後	2		1	1				1	
	言語聴覚障害演習Ⅰ	2後	1		3	1	1				
	言語聴覚障害演習Ⅱ	3前	1		3	1	1				
言語聴覚障害演習Ⅲ	3後	1		3	1	1					
学外評価臨床実習	3後	4		3	2	1					
学外総合臨床実習	4前	8		3	2	1					
小計(35科目)	—	2	66	0	3	2	2	0	0	19	
専門分野関連科目	動物人間関係学	1前	2			1					
	動物生態学	1後	2							1	
	動物介在教育学	2後	2			1					
	アニマルセラピー概論	2前	2			1					
	アニマルセラピー演習Ⅰ	3前	1			1					
	アニマルセラピー演習Ⅱ	3後	1			1					
	動物適正飼養・トレーニング学	2前	2							1	
	動物トレーニング実習	2後	1							1	
	教育心理学	3前	2			1					
	教育相談	3後	2			1					
	心理尺度検査法実習	4前	1		1						
	キャリアアカウンティング	4前	2		1						
	レクリエーション論	2前	2							1	
	レクリエーション実技	2後	1							1	
	福祉住環境論	4前	2							1	
	スクールソーシャルワーク論	3前	2			↓				1	
	スクールソーシャルワーク演習	3後	1			↓				1	
	医療ソーシャルワーク論	3後	2							2	
	チーム医療概論	3後	2							2	
医療ソーシャルワーク実習指導	4前	1							1		
医療ソーシャルワーク実習	4前	1							1		
時事福祉学Ⅰ	4前	2							5		
時事福祉学Ⅱ	4後	2							5		
連携実践演習	4前	1							1		
認知症の理解Ⅰ	3前	2							1		
認知症の理解Ⅱ	3後	2							1		
小計(25科目)	—	2	39	0	2	2	0	0	0	9	
総合科目	基礎ゼミⅠ	2前	2			2	3	1			
	基礎ゼミⅡ	2後	2			3	3	1			
	専門ゼミⅠ	3前	2			5	4	2			
	専門ゼミⅡ	3後	2			5	4	2			
	専門ゼミⅢ	4前	2			5	4	2			
	専門ゼミⅣ	4後	2			5	4	2			
	小計(6科目)	—	12	0	0	5	4	2	0	0	
合計(166科目)	—	30	273	0	5	4	2	0	0	73	
卒業要件及び履修方法											
基礎科目の中から必修科目4単位を含む24単位以上、専門教育科目から必修科目24単位を含む100単位以上を修得し、124単位以上修得すること。 (履修科目の登録の上限:49単位(年間))											

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門分野関連科目	チーム医療概論	3後		2								2
	医療ソーシャルワーク実習指導	4前		1								2
	医療ソーシャルワーク実習	4前		1								2
	時事福祉学	4前		2								5
	連携実践演習	4前		1								1
	認知症の理解Ⅰ	3前		2								1
	認知症の理解Ⅱ	3後		2								1
小計(25科目)	—	2	39	0	2	2	0	0	0	0	12	
総合科目	基礎ゼミⅠ	2前	2			2	3	2				
	基礎ゼミⅡ	2後	2			2	3	2				
	専門ゼミⅠ	3前	2			6	3	3				
	専門ゼミⅡ	3後	2			6	3	3				
	専門ゼミⅢ	4前	2			6	3	3				
	専門ゼミⅣ	4後	2			6	3	3				
小計(6科目)	—	12	0	0	6	3	3	0	0	0		
合計(167科目)	—	28	277	0	6	3	3	0	0	0	51	
卒業要件及び履修方法												
基礎科目の中から必修科目4単位を含む24単位以上、専門教育科目から必修科目24単位を含む100単位以上を修得し、124単位以上修得すること。 (履修科目の登録の上限:49単位(年間))												

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門分野関連科目	チーム医療概論	3後		2								2
	医療ソーシャルワーク実習指導	4前		1								2
	医療ソーシャルワーク実習	4前		1								2
	時事福祉学Ⅰ	4前		2								5
	時事福祉学Ⅱ	4後		2								5
	連携実践演習	4前		1								1
	認知症の理解Ⅰ	3前		2								1
認知症の理解Ⅱ	3後		2								1	
小計(25科目)	—	2	39	0	2	2	0	0	0	0	9	
総合科目	基礎ゼミⅠ	2前	2			2	3	1				
	基礎ゼミⅡ	2後	2			3	3	1				
	専門ゼミⅠ	3前	2			6	3	3				
	専門ゼミⅡ	3後	2			6	3	3				
	専門ゼミⅢ	4前	2			6	3	3				
	専門ゼミⅣ	4後	2			6	3	3				
小計(6科目)	—	12	0	0	6	3	3	0	0	0		
合計(165科目)	—	28	276	0	6	3	3	0	0	0	51	
卒業要件及び履修方法												
基礎科目の中から必修科目4単位を含む24単位以上、専門教育科目から必修科目24単位を含む100単位以上を修得し、124単位以上修得すること。 (履修科目の登録の上限:49単位(年間))												

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ 認可申請書又は設置届出書の様式第2号(その2の1)に準じて作成してください。
 - ・ 各欄の作成方法は「大学の設置等に係る提出書類作成の手引き」の「教育課程等の概要」を確認してください。
 - ・ 「認可時又は届出時」には 設置認可時又は届出時の授業科目全て(兼任、兼任教員が担当する科目を含む。)を黒字で記入してください。その上で、各年度については、認可時又は届出時から変更となっている箇所は**太字の赤字**としてください。
 - ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目についても科目名の後ろに「(未開講)」として記入してください。
 - ・ 1ページ目には認可時又は届出時と報告年度2つの表を記入してください。
 - ・ 不要な年度(令和2年度開設であれば令和元年度)の表は適宜削除してください。
(2つの表が1ページに表示されるようにしてください。)
 - ・ 専門職大学等の場合、「実験、実習又は実技による授業科目」には「【※】」、「臨地実務実習」による授業科目には「【臨】」、「連携実務演習」による授業科目には「【連】」を授業科目の名称の右側に記入してください。

(1) 一②授業科目表に関する変更内容

【令和元年度】

--

【令和2年度】

特になし。

【令和3年度】

<p>・学部共通基礎科目「インターンシップⅢ」および専門分野関連科目「チーム医療概論」の廃止 本改組の基となる社会福祉学部の基礎（教養）科目をベースにカリキュラム検討を行い構成していたが、この度の養成規則改正に伴い学部全体の構成を見直した結果、既存学部での経験上、十分な教育効果が得られるとの結論に至りインターンシップⅢおよびチーム医療概論を廃止とした。</p> <p>・社会福祉士養成課程の科目の変更により、科目名称を変更 「児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度」から「児童・家庭福祉」、「障害者に対する支援と障害者自立支援制度」から「障害者福祉」「高齢者に対する支援と介護保険制度Ⅰ」から「高齢者福祉」、「高齢者に対する支援と介護保険制度Ⅱ」から「介護概論」とし、1年後より2年前に変更、「相談援助の基盤と専門職Ⅰ、Ⅱ」から「ソーシャルワークの基礎と専門職Ⅰ、Ⅱ」、「現代社会と福祉Ⅰ、Ⅱ」から「社会福祉の原理と政策Ⅰ、Ⅱ」、「低所得者に対する支援と生活保護制度」から「貧困に対する支援」、「地域福祉の理論と方法Ⅰ、Ⅱ」から「地域福祉と包括的支援体制Ⅰ、Ⅱ」、「相談援助の理論と方法Ⅰ～Ⅳ」から「ソーシャルワークの理論と方法Ⅰ～Ⅳ」、「保健医療サービス」から「保健医療と福祉」、「福祉行財政」と「福祉計画と就労支援サービス」は削除、「更正保護制度」から「刑事司法と福祉」、「相談援助の理論と方法Ⅰ～Ⅴ」から「ソーシャルワーク演習Ⅰ～Ⅴ」、「相談援助実習指導Ⅰ～Ⅲ」から「ソーシャルワーク実習指導Ⅰ～Ⅲ」、「相談援助実習」を「ソーシャルワーク実習Ⅰ」を2前に「ソーシャルワーク実施Ⅱ」を3前期とし、単位数も4単位から2単位と4単位の合計6単位に増加した。「時事福祉学」を「時事福祉学ⅠとⅡ」に分割し、時事福祉学Ⅱは4後に開設する。したがって、インターンシップⅢは、他学科に合わせ1科目廃止し、社会福祉士養成指定科目の変更により、2科目廃止し、28科目を名称変更し、専門分野関連科目の時事福祉学ⅠとⅡ分散した。</p>
--

【令和4年度】

<p>・大学全体で開講する共通基礎科目の見直しに伴う統廃合等 「英語Ⅰ」「英語Ⅱ」を「英語」「英語コミュニケーション」に科目名称変更。なお、内容等に変更はない。 「情報処理演習」を「データサイエンスⅠ」「データサイエンスⅡ」として分割。 「インターンシップⅠ」を「インターンシップ」に科目名称変更「インターンシップⅡ」を廃止した。 「日向国地域体験学習、医療・福祉連携講座」を新設。</p>

- (注) ・ 2(1)一① 授業科目表に記入された各年度における変更内容（配当年次の変更、専任教員等の配置の変更、授業科目名の変更、新規科目の追加など）を簡条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
- ・ 変更内容には、授業科目の未開講や廃止については記入しないでください。
 - ・ 不要な年度（令和2年度開設であれば令和元年度）の表は適宜削除してください。

(2) 授業科目数

設置時の計画				変更状況				備考
必修	選択	自由	計 (A)	必修	選択	自由	計	
15 科目	152 科目	0 科目	167 科目	16 科目 [1]	150 科目 [Δ2]	0 科目 [0]	166 科目 [Δ1]	

(注) ・ 未開講科目も含めた教育課程上の授業科目数を記入するとともに、[] 内に、設置時の計画からの増減を記入してください。 (記入例：1科目減の場合：Δ1)

(3) 未開講科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	未開講の理由、代替措置の有無
1						
2						
3						

- (注) ・ 配当年次に達しているにも関わらず、何らかの理由で未開講となっている授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目については記入しないでください。
 - ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」と修正して記入してください。
 - ・ 専門職大学等の場合は、「一般・専門」を「基礎、展開、職業専門、総合」と修正して記入してください。

(4) 廃止科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	廃止の理由、代替措置の有無
1	英語Ⅰ	2	1	一般	選択	「英語」に科目名称変更し開講
2	英語Ⅱ	2	1	一般	選択	「英語コミュニケーション」として開講
3	インターンシップⅠ	1	2	一般	選択	「インターンシップ」として開講
4	インターンシップⅡ	1	2	一般	選択	科目の内容を見直し、全学的に廃止
5	インターンシップⅢ	1	2	一般	選択	科目の内容を見直し、全学的に廃止
6	福祉行財政と福祉計画	2	3	専門	選択	社会福祉士指定科目の変更のため
7	就労支援サービス	1	3	専門	選択	社会福祉士指定科目の変更のため
8	チーム医療概論	2	3	専門	選択	科目の内容を見直し、全学的に廃止

- (注) ・ 設置時の計画にあり、何らかの理由で廃止（教育課程から削除）した授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」として記入してください。
 - ・ 専門職大学等の場合は、「一般・専門」を「基礎、展開、職業専門、総合」と修正して記入してください。

(5) 授業科目を未開講又は廃止としたことに係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

令和3年度において、インターンシップⅢおよびチーム医療概論について、本改組の基となる社会福祉学部の基礎（教養）科目をベースにカリキュラム検討を行い構成していたが、この度の養成規則改正に伴い学部全体の構成を見直した結果、既存学部での経験上、十分な教育効果が得られるとの結論に至り、廃止となった。

福祉行財政と福祉計画および就労支援サービスについては、社会福祉士の指定科目の変更による統廃合により廃止したものであり、学生には、学生便覧を配布し、オリエンテーションにてカリキュラムと併せ、説明済みである。

令和4年度では、大学全体共通として開講の教養基礎科目の見直し（統廃合）を行ったことに伴い、結果として1科目減となった。本変更は大学のブランド力向上及び地域（地方）の特色を活かした科目開講を念頭に変更を行っており、学生には、学生便覧等を配布し、オリエンテーションにてカリキュラムと併せ、説明済みである。

- (注) ・ 授業科目を未開講又は廃止としたことによる学生の履修への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能な限り具体的に記入してください。

(6) 「設置時の計画の授業科目数の計」に対する「未開講科目と廃止科目の計」の割合

$$\frac{\text{未開講科目(3)と廃止科目(4)の計}}{\text{設置時の計画の授業科目数の計(A)}} = \frac{8}{167} = \boxed{4.79}\%$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。
・ 「未開講科目と廃止科目の計」が、「(3)未開講科目」と「(4)廃止科目」の合計数となるように留意してください。

3 施設・設備の整備状況, 経費

区 分		内 容				備 考					
(1) 校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計						
	校 舎 敷 地	201,822.00㎡	0.00㎡	0㎡	201,822.00㎡						
	運 動 場 用 地	21,174.00㎡	0.00㎡	0㎡	21,174.00㎡						
	小 計	222,996.00㎡	0.00㎡	0㎡	222,996.00㎡						
	そ の 他	10,506.74㎡	0.00㎡	0㎡	10,506.74㎡						
	合 計	233,502.74㎡	0.00㎡	0㎡	233,502.74㎡						
(2) 校 舎	専 用	38,119.10㎡	0㎡	0㎡	38,119.10㎡						
	(38,119.10㎡)	(0㎡)	(0㎡)	(0㎡)	(38,119.10㎡)						
(3) 教 室 等	講 義 室	34室	演 習 室	41室	実験実習室	87室	情報処理学習施設	1室	語学学習施設	1室	
							(補助職員 人)		(補助職員 人)		
(4) 専任教員研究室	新設学部等の名称				室 数						
	臨床心理学部 臨床心理学科				12 室						
(5) 図 書 ・ 設 備	新設学部等の 名称	図 書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標 本 点				
	臨床心理学部 臨床心理学科	5,182(1,196) 5,109(1,195) 4,422(912) 4,314(909)	27〔 6〕	6〔 6〕	20	1,645 1,591	3	図書購入による増冊 (2)			
	計	5,182(1,196) (5,109(1,195)) (4,422(912)) (4,314(909))	(27〔 6〕)	(6〔 6〕)	(20)	(1,645) (1,591)	(3)	図書購入による増冊および機械・器具増加による変更(3)			
		5,182(1,196) 5,109(1,195) 4,422(912) 4,314(909)	27〔 6〕	6〔 6〕	20	1,645 1,591	3	図書購入による増冊 (4)			
(6) 図 書 館	面 積		閱 覧 座 席 数		収 納 可 能 冊 数						
	1,898㎡		361		114,086		大学全体				
(7) 体 育 館	面 積		体 育 館 以 外 の ス ポ ー ツ 施 設 の 概 要								
	1,879,20㎡		柔 道 場	225.00 ㎡	剣 道 場	217.50 ㎡	大学全体				
(8) 経 費 の 見 積 り 及 び 維 持 方 法 の 概 要	経費の見積り	区 分	開設年度	完成年度	区 分	開設前年度	開設年度	完成年度			
		教員1人当り研究費等	355千円	326千円	図書購入費	805千円	200千円	200千円			
	共同研究費等	10,000千円	800千円	設備購入費	千円	300千円	200千円				
	学生1人当り 納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次				
		1,503千円	1,203千円	1,203千円	1,203千円	千円	千円				
学生納付金以外の維持方法の概要											

- (注) ・ 設置時の計画を、申請書の様式第2号(その1の1)に準じて作成してください。(複数のキャンパスに分かれている場合、複数の様式に分ける必要はありません。なお、「(1)校地等」及び「(2)校舎」は大学全体の数字を、その他の項目はAC対象学部等の数値を記入してください。)
- ・ 運動場用地が校舎敷地と別地にある場合は、その旨(所要時間・距離等)を「備考」に記入してください。
 - ・ 「(5)図書・設備」については、上段に完成年度の予定数値を、下段には令和4年5月1日現在の数値を記入してください。
 - ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更のあったものについては、変更部分を赤字で見え消し修正するとともに、その理由及び報告年度「(4)」を「備考」に赤字で記入してください。
なお、昨年度の報告において赤字で見え消しした部分については、見え消しのまま黒字にしてください。
 - ・ 校舎等建物の計画の変更(校舎又は体育館の総面積の減少、建築計画の遅延)がある場合には、「建築等設置計画変更書」を併せて提出してください。
 - ・ 国立大学については「(8)経費の見積り及び維持方法の概要」は記載不要です。

4. 既設大学等の状況

大学の名称	吉備国際大学					平均入学定員超過率	令和4年度入学定員超過率	6	平均入学定員超過率1.3倍以上の学科等数	0	備考
	既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員						
	年	人	年次	人		倍	倍	年度	年度	年度	
社会学研究科											
社会学専攻	3	4	—	12	博士(社会学)	0.00	0.00	—	平成9年度	岡山県高梁市伊賀町8番地	
社会学専攻 博士(後期)課程	2	12	—	24	修士(社会学)	0.29	0.33	—	平成7年度	同上	
保健科学研究科											
保健科学専攻	3	3	—	9	博士(保健学)	0.22	0.33	—	平成17年度	同上	
保健科学専攻 博士(後期)課程	2	6	—	12	修士(保健学)	0.24	0.16	—	平成12年度	同上	
心理学研究科											
心理学専攻	3	2	—	6	博士(心理学)	0.00	0.00	—	平成18年度	同上	
心理学専攻 博士(後期)課程	2	—	—	—	修士(臨床心理学)	—	—	—	平成16年度	同上	平成31年度より学生募集停止
心理学専攻 修士課程	2	15	—	30	修士(心理学)	0.56	0.40	—	平成22年度	同上	
地域創成農学研究科											
地域創成農学専攻	3	2	—	4	博士(農学)	0.00	0.00	—	平成31年度	兵庫県南あわじ市志知佐礼元570番1	
地域創成農学専攻 博士(後期)課程	2	4	—	8	修士(農学)	0.12	0.25	—	平成29年度	同上	
(通信制)社会福祉学研究科											
社会福祉学専攻	2	—	—	—	修士(社会福祉学)	—	—	—	平成14年度	岡山県高梁市伊賀町8番地	平成31年度より学生募集停止
連合国際協力研究科											
国際協力専攻	2	7	—	14	修士(国際協力学)	0.85	0.71	—	平成18年度	同上	
(通信制)心理学研究科											
心理学専攻	3	3	—	9	博士(心理学)	0.11	0.00	—	平成18年度	同上	
(通信制)保健科学研究科											
理学療法専攻	2	15	—	30	修士(理学療法)	0.63	0.60	—	平成20年度	同上	
理学療法専攻 修士課程	2	10	—	20	修士(作業療法)	0.75	0.50	—	平成22年度	同上	
(通信制)知的財産学研究科											
知的財産学専攻	2	—	—	—	修士(知的財産学)	—	—	—	平成20年度	同上	令和2年度より学生募集停止
社会科学部											
経営社会学科	4	100	3年次	284	学士(経営社会学)	0.91	0.51	—	平成25年度	同上	令和3年度より入学定員増(40人)
スポーツ社会学科	4	80	—	340	学士(スポーツ社会)	0.84	0.63	—	平成17年度	同上	平成31年度より入学定員減(△20人)
保健医療福祉学部											
看護学科	4	60	3年次	260	学士(看護学)	0.53	0.41	—	平成7年度	同上	
理学療法学科	4	40	—	160	学士(理学療法)	0.80	0.77	—	平成7年度	同上	
作業療法学科	4	40	—	160	学士(作業療法)	0.29	0.35	—	平成7年度	同上	
社会福祉学科	4	—	—	—	学士(社会福祉学)	—	—	—	平成23年度	同上	平成31年度より学生募集停止
心理学部											
心理学科	4	50	—	170	学士(心理学)	1.05	0.70	—	平成19年度	同上	平成31年度より入学定員減(△10人)
子ども発達教育学科	4	—	—	—	学士(子ども発達教育学)	—	—	—	平成23年度	同上	令和3年度より学生募集停止
農学部											
地域創成農学科	4	50	3年次	204	学士(地域創成農学)	0.69	0.42	—	平成25年度	兵庫県南あわじ市志知佐礼元570番1	平成30年度より入学定員減(△10人)
醸造学科	4	40	—	160	学士(醸造学)	0.46	0.32	—	平成30年度	同上	
外国語学部											
外国学科	4	50	—	200	学士(外国語)	0.98	0.70	—	平成26年度	岡山県岡山市北区農田西町5番5号	平成30年度より入学定員減(△30人)
アニメーション文化学部											
アニメーション文化学科	4	40	—	160	学士(アニメーション文化)	0.85	0.52	—	平成26年度	岡山県高梁市伊賀町8番地	
通信教育部心理学部											
子ども発達教育学科	4	—	—	—	学士(子ども発達教育学)	—	—	—	平成24年度	同上	令和3年度より学生募集停止
大学全体	4	633	14	2276		0.51	0.36				

大学の名称	九州保健福祉大学					学生募集停止学科数	4	平均入学定員超過率1.3倍以上の学科等数	0	備考	
既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	平均入学定員超過率	令4年度入学定員超過率	定員変更年度(AC期間の学科のみ)	開設年度	所在地	
	年	人	年次人	人		倍	倍	年度	年度	年度	
医療薬学研究科 医療薬学専攻 博士課程 (通信制)社会福祉学研究科	4	4	—	16	博士 (医療薬学)	0.06	0.25	—	平成24年度	宮崎県延岡市白野町1714番1	
社会福祉学専攻 博士(後期)課程 (通信制)社会福祉学研究科	3	5	—	15	博士 (社会福祉学)	0.66	0.40	—	平成16年度	同上	
社会福祉学専攻 修士課程 (通信制)保健科学研究科	2	7	—	27	修士 (社会福祉学)	0.49	0.14	—	平成14年度	同上	令和3年度より入学定員減 (△13人)
保健科学専攻 博士(後期)課程 保健科学専攻 博士(前期)課程	3	3	—	9	博士 (保健科学)	0.11	0.00	—	平成16年度	同上	
社会福祉学部 スポーツ健康福祉学科	2	7	—	14	修士 (保健科学)	0.92	0.71	—	平成14年度	同上	
臨床福祉学科	4	40	3年次2 4年次3	164	学士 (社会福祉学)	0.85	0.97	—	平成16年度	同上	
保健科学部 作業療法学科	4	40	3年次2	189	学士 (社会福祉学)	0.50	0.55	—	平成11年度	同上	平成31年度より入学定員減 (△25人) 平成31年度より編入学入学定員減 (△3人)
言語聴覚療法学科	4	—	—	—	学士 (保健科学)	—	—	—	平成11年度	同上	令和2年度より学生募集停止
視機能療法学科	4	—	—	—	学士 (保健科学)	—	—	—	平成11年度	同上	令和2年度より学生募集停止
臨床工学科	4	—	—	—	学士 (保健科学)	—	—	—	平成11年度	同上	平成31年度より学生募集停止 (△10人) 令和2年度より学生募集停止
薬学部 薬学科	4	—	—	—	学士 (保健科学)	—	—	—	平成19年度	同上	
動物生命薬科学科	6	100	2年次3 4年次3	744	学士 (薬学)	0.63	0.34	—	平成15年度	同上	平成31年度より入学定員減 (△40人)
生命医科学部 生命医科学科	4	40	—	160	学士 (動物生命薬科)	0.53	0.62	—	平成20年度	同上	
臨床心理学部 臨床心理学科	4	80	—	280	学士 (生命医科学)	0.73	0.72	—	平成27年度	同上	令和2年度より入学定員増 (20人)
通信教育部社会福祉学部 臨床福祉学科	4	40	—	120	学士 (臨床心理学)	0.94	0.80	—	令和2年度	同上	
大学全体	4	300	2年次30 3年次150 4年次10	2,000	学士 (社会福祉学)	0.20	0.17	—	平成14年度	同上	令和2年度より入学定員減 (△200人)

- (注) ・本調査の対象となっている大学等の設置者が既に設置している全ての大学、大学院、短期大学及び高等専門学校についてそれぞれの学校ごとに、報告年度の5月1日現在の状況を記入してください(専攻科及び別科を除く)。
・学部の学科または研究科の専攻等、「入学定員を定めている組織」ごとに全ての組織を記入してください。
※「入学定員を定めている組織」ごとには、課程認定等によりコース・専攻に入学定員を定めている場合を含めます。履修上の区分としてコース・専攻を設けている場合は含めません。
・本年度AC対象となる学部等については、必ず下線を引いてください。
・「平均入学定員超過率」には、報告年度(令和4年度)から起算した修業年限に相当する期間の入学定員超過率の平均を記載してください。
・「備考」の欄については、学年進行中の入学定員の増減や学生募集停止など、収容定員に影響のある情報を記入してください。

5 教員組織の状況

<臨床心理学部 臨床心理学科>

(1) ① 担当教員表

【認可時又は届出時】

		【令和2年度】		【令和3年度】		【令和4年度】	
専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)<就任(予定)年月>保有学位等	氏名(年齢)<就任(予定)年月>保有学位等	氏名(年齢)<就任(予定)年月>保有学位等	氏名(年齢)<就任(予定)年月>保有学位等	氏名(年齢)<就任(予定)年月>保有学位等	氏名(年齢)<就任(予定)年月>保有学位等
		担当授業科目名	担当授業科目名	担当授業科目名	担当授業科目名	担当授業科目名	担当授業科目名
専任	教授	倉内 紀子 (63) <令和2年4月> 教育学修士	倉内 紀子 (64) <令和2年4月> 教育学修士	倉内 紀子 (65) <令和2年4月> 教育学修士	倉内 紀子 (66) <令和2年4月> 教育学修士	倉内 紀子 (66) <令和2年4月> 教育学修士	倉内 紀子 (66) <令和2年4月> 教育学修士
専任	教授	横山 裕 (53) <令和2年4月> 文学修士 ※	横山 裕 (54) <令和2年4月> 文学修士 ※	横山 裕 (55) <令和2年4月> 文学修士 ※	横山 裕 (56) <令和2年4月> 文学修士 ※	横山 裕 (56) <令和2年4月> 文学修士 ※	横山 裕 (56) <令和2年4月> 文学修士 ※
専任	教授	吉武 重徳 (60) <令和2年4月> 医学博士	吉武 重徳 (61) <令和2年4月> 医学博士	吉武 重徳 (62) <令和2年4月> 医学博士	吉武 重徳 (63) <令和2年4月> 医学博士	吉武 重徳 (63) <令和2年4月> 医学博士	吉武 重徳 (63) <令和2年4月> 医学博士
専任	教授	原 修一 (53) <令和2年4月> 博士(医学)	原 修一 (54) <令和2年4月> 博士(医学)	原 修一 (55) <令和2年4月> 博士(医学)	原 修一 (56) <令和2年4月> 博士(医学)	原 修一 (56) <令和2年4月> 博士(医学)	原 修一 (56) <令和2年4月> 博士(医学)
						兼任 講師	

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	担当授業科目名	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	担当授業科目名	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	担当授業科目名
専	教授	中村 真理子 (58) <令和2年4月> 博士(歯学)	基礎演習Ⅰ 基礎演習Ⅱ 臨床歯科医学・口腔外科学 音声学 ※ 公衆衛生学 言語聴覚障害総論 ※ 発声発語障害学演習Ⅰ ※ 発声発語障害学演習Ⅱ ※ 嚥下障害学 ※ 嚥下障害学Ⅱ ※ 言語聴覚障害学演習Ⅰ 言語聴覚障害学演習Ⅱ 言語聴覚障害学演習Ⅲ 学外評価臨床実習 学外総合臨床実習 専門ゼミⅠ 専門ゼミⅡ 専門ゼミⅢ 専門ゼミⅣ	専	教授	中村 真理子 (59) <令和2年4月> 博士(歯学)	基礎演習Ⅰ 基礎演習Ⅱ 臨床歯科医学・口腔外科学 音声学 ※ 公衆衛生学 言語聴覚障害総論 ※ 発声発語障害学演習Ⅰ ※ 発声発語障害学演習Ⅱ ※ 嚥下障害学Ⅰ ※ 嚥下障害学Ⅱ ※ 言語聴覚障害学演習Ⅰ 言語聴覚障害学演習Ⅱ 言語聴覚障害学演習Ⅲ 学外評価臨床実習 学外総合臨床実習 基礎ゼミⅡ 専門ゼミⅠ 専門ゼミⅡ 専門ゼミⅢ 専門ゼミⅣ	専	教授	中村 真理子 (60) <令和2年4月> 博士(歯学)	基礎演習Ⅰ 基礎演習Ⅱ 臨床歯科医学・口腔外科学 音声学 ※ 公衆衛生学 言語聴覚障害総論 ※ 発声発語障害学演習Ⅰ ※ 発声発語障害学演習Ⅱ ※ 嚥下障害学Ⅰ ※ 嚥下障害学Ⅱ ※ 言語聴覚障害学演習Ⅰ 言語聴覚障害学演習Ⅱ 言語聴覚障害学演習Ⅲ 学外評価臨床実習 学外総合臨床実習 基礎ゼミⅡ 専門ゼミⅠ 専門ゼミⅡ 専門ゼミⅢ 専門ゼミⅣ
専	教授	前田 直樹 (47) <令和2年4月> 博士(社会福祉学)	基礎演習Ⅰ 基礎演習Ⅱ 心理学概論 臨床心理学概論 学習・言語心理学 心理学的支援法 司法・犯罪心理学 心理演習Ⅱ 心理実習 心理尺度検査法実習 基礎ゼミⅠ 基礎ゼミⅡ 専門ゼミⅠ 専門ゼミⅡ 専門ゼミⅢ 専門ゼミⅣ	専	教授	前田 直樹 (48) <令和2年4月> 博士(社会福祉学)	基礎演習Ⅰ 基礎演習Ⅱ 心理学概論 臨床心理学概論 学習・言語心理学 心理学的支援法 司法・犯罪心理学 心理演習Ⅱ 心理実習 心理尺度検査法実習 基礎ゼミⅠ 基礎ゼミⅡ 専門ゼミⅠ 専門ゼミⅡ 専門ゼミⅢ 専門ゼミⅣ	専	教授	前田 直樹 (49) <令和2年4月> 博士(社会福祉学)	基礎演習Ⅰ 基礎演習Ⅱ 心理学概論 臨床心理学概論 学習・言語心理学 心理学的支援法 司法・犯罪心理学 心理演習Ⅱ 心理実習 心理尺度検査法実習 基礎ゼミⅠ 基礎ゼミⅡ 専門ゼミⅠ 専門ゼミⅡ 専門ゼミⅢ 専門ゼミⅣ
専	准教授	松山 光生 (52) <令和2年4月> 博士(心身障害学)	基礎演習Ⅰ 基礎演習Ⅱ 医療統計学演習 言語発達学 リハビリテーション概論 言語聴覚障害診断学 ※ 言語聴覚障害学演習Ⅰ 言語聴覚障害学演習Ⅱ 言語聴覚障害学演習Ⅲ 学外評価臨床実習 学外総合臨床実習 基礎ゼミⅠ 基礎ゼミⅡ 専門ゼミⅠ 専門ゼミⅡ 専門ゼミⅢ 専門ゼミⅣ	専	准教授	松山 光生 (53) <令和2年4月> 博士(心身障害学)	基礎演習Ⅰ 基礎演習Ⅱ 医療統計学演習 言語発達学 リハビリテーション概論 言語聴覚障害診断学 ※ 言語聴覚障害学演習Ⅰ 言語聴覚障害学演習Ⅱ 言語聴覚障害学演習Ⅲ 学外評価臨床実習 学外総合臨床実習 基礎ゼミⅠ 基礎ゼミⅡ 専門ゼミⅠ 専門ゼミⅡ 専門ゼミⅢ 専門ゼミⅣ	専	准教授	松山 光生 (54) <令和2年4月> 博士(心身障害学)	基礎演習Ⅰ 基礎演習Ⅱ 医療統計学演習 言語発達学 リハビリテーション概論 言語聴覚障害診断学 ※ 言語聴覚障害学演習Ⅰ 言語聴覚障害学演習Ⅱ 言語聴覚障害学演習Ⅲ 学外評価臨床実習 学外総合臨床実習 基礎ゼミⅠ 基礎ゼミⅡ 専門ゼミⅠ 専門ゼミⅡ 専門ゼミⅢ 専門ゼミⅣ
専	准教授	田中 陽子 (53) <令和2年4月> 教育学修士	基礎演習Ⅰ 基礎演習Ⅱ 公認心理師の職責 心理的アセスメント 教育・学校心理学 心理演習Ⅰ 心理実習 教育心理学 教育相談 基礎ゼミⅠ 基礎ゼミⅡ 専門ゼミⅠ 専門ゼミⅡ 専門ゼミⅢ 専門ゼミⅣ	専	准教授	田中 陽子 (54) <令和2年4月> 教育学修士	基礎演習Ⅰ 基礎演習Ⅱ 公認心理師の職責 心理的アセスメント 教育・学校心理学 心理演習Ⅰ 心理実習 教育心理学 教育相談 基礎ゼミⅠ 基礎ゼミⅡ 専門ゼミⅠ 専門ゼミⅡ 専門ゼミⅢ 専門ゼミⅣ	専	准教授	田中 陽子 (55) <令和2年4月> 教育学修士	基礎演習Ⅰ 基礎演習Ⅱ 公認心理師の職責 心理的アセスメント 教育・学校心理学 心理演習Ⅰ 心理実習 教育心理学 教育相談 基礎ゼミⅠ 基礎ゼミⅡ 専門ゼミⅠ 専門ゼミⅡ 専門ゼミⅢ 専門ゼミⅣ
専	准教授	加藤 謙介 (44) <令和2年4月> 博士(人間科学)	基礎演習Ⅰ 基礎演習Ⅱ 社会・集団・家族心理学 心理学実験 心理実習 動物人間関係学 動物介在教育学 アニマルセラピー概論 アニマルセラピー演習Ⅰ アニマルセラピー演習Ⅱ 基礎ゼミⅠ 基礎ゼミⅡ 専門ゼミⅠ 専門ゼミⅡ 専門ゼミⅢ 専門ゼミⅣ	専	准教授	加藤 謙介 (45) <令和2年4月> 博士(人間科学)	基礎演習Ⅰ 基礎演習Ⅱ 社会・集団・家族心理学 心理学実験 心理実習 動物人間関係学 動物介在教育学 アニマルセラピー概論 アニマルセラピー演習Ⅰ アニマルセラピー演習Ⅱ 基礎ゼミⅠ 基礎ゼミⅡ 専門ゼミⅠ 専門ゼミⅡ 専門ゼミⅢ 専門ゼミⅣ	専	准教授	加藤 謙介 (46) <令和2年4月> 博士(人間科学)	基礎演習Ⅰ 基礎演習Ⅱ 社会・集団・家族心理学 心理学実験 心理実習 動物人間関係学 動物介在教育学 アニマルセラピー概論 アニマルセラピー演習Ⅰ アニマルセラピー演習Ⅱ 基礎ゼミⅠ 基礎ゼミⅡ 専門ゼミⅠ 専門ゼミⅡ 専門ゼミⅢ 専門ゼミⅣ
専	准教授	加藤 謙介 (44) <令和2年4月> 博士(人間科学)	基礎演習Ⅰ 基礎演習Ⅱ 社会・集団・家族心理学 心理学実験 心理実習 動物人間関係学 動物介在教育学 アニマルセラピー概論 アニマルセラピー演習Ⅰ アニマルセラピー演習Ⅱ 基礎ゼミⅠ 基礎ゼミⅡ 専門ゼミⅠ 専門ゼミⅡ 専門ゼミⅢ 専門ゼミⅣ	専	准教授	加藤 謙介 (45) <令和2年4月> 博士(人間科学)	基礎演習Ⅰ 基礎演習Ⅱ 社会・集団・家族心理学 心理学実験 心理実習 動物人間関係学 動物介在教育学 アニマルセラピー概論 アニマルセラピー演習Ⅰ アニマルセラピー演習Ⅱ 基礎ゼミⅠ 基礎ゼミⅡ 専門ゼミⅠ 専門ゼミⅡ 専門ゼミⅢ 専門ゼミⅣ	専	准教授	加藤 謙介 (47) <令和2年4月> 博士(人間科学)	基礎演習Ⅰ 基礎演習Ⅱ 社会・集団・家族心理学 心理学実験 心理実習 動物人間関係学 動物介在教育学 アニマルセラピー概論 アニマルセラピー演習Ⅰ アニマルセラピー演習Ⅱ 基礎ゼミⅠ 基礎ゼミⅡ 専門ゼミⅠ 専門ゼミⅡ 専門ゼミⅢ 専門ゼミⅣ

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等			
		担当授業科目名		担当授業科目名		担当授業科目名		担当授業科目名			
							専任	准教授 倉澤 美智子 (44) <令和4年4月> 博士(医科学) 基礎演習Ⅰ 基礎演習Ⅱ 言語聴覚障害総論 ※ 失聴症Ⅰ 失聴症Ⅱ 発声発語障害学 ※ 発声発語障害学Ⅱ ※ 嚥下障害学Ⅱ ※ 嚥下障害学演習 ※ 補聴器・人工内耳 ※ 言語聴覚障害演習Ⅰ 言語聴覚障害演習Ⅱ 学外評価臨床実習 学外総合臨床実習 専門ゼミⅠ 専門ゼミⅡ 専門ゼミⅢ 専門ゼミⅣ			
専任	講師	太田 栄次 (47) <令和2年4月> 文学博士 英語Ⅰ 英語Ⅱ 英語コミュニケーション 基礎演習Ⅰ 基礎演習Ⅱ 言語学音声学 ※ 言語聴覚障害診断学 ※ 言語聴覚障害総論 ※ 言語聴覚障害演習Ⅰ 言語聴覚障害演習Ⅱ 言語聴覚障害演習Ⅲ 学外評価臨床実習 学外総合臨床実習 基礎ゼミⅠ 基礎ゼミⅡ 専門ゼミⅠ 専門ゼミⅡ 専門ゼミⅢ 専門ゼミⅣ	専任	講師	太田 栄次 (48) <令和2年4月> 文学博士 英語Ⅰ 英語Ⅱ 英語コミュニケーション 基礎演習Ⅰ 基礎演習Ⅱ 言語学音声学 ※ 言語聴覚障害診断学 ※ 言語聴覚障害総論 ※ 言語聴覚障害演習Ⅰ 言語聴覚障害演習Ⅱ 言語聴覚障害演習Ⅲ 学外評価臨床実習 学外総合臨床実習 基礎ゼミⅠ 基礎ゼミⅡ 専門ゼミⅠ 専門ゼミⅡ 専門ゼミⅢ 専門ゼミⅣ	専任	講師	太田 栄次 (49) <令和2年4月> 文学博士 英語Ⅰ 英語Ⅱ 英語コミュニケーション 基礎演習Ⅰ 基礎演習Ⅱ 言語学音声学 ※ 言語聴覚障害診断学 ※ 言語聴覚障害総論 ※ 言語聴覚障害演習Ⅰ 言語聴覚障害演習Ⅱ 言語聴覚障害演習Ⅲ 学外評価臨床実習 学外総合臨床実習 基礎ゼミⅠ 基礎ゼミⅡ 専門ゼミⅠ 専門ゼミⅡ 専門ゼミⅢ 専門ゼミⅣ	兼任	講師	太田 栄次 (50) <令和2年4月> 文学博士 言語学 音声学 ※ 言語聴覚障害診断学 ※ 言語聴覚障害総論 ※
							専任	講師 戸高 翼 (38) <令和2年4月> 修士(保健科学) 基礎演習Ⅰ 基礎演習Ⅱ 耳鼻咽喉科学 ※ 言語聴覚障害総論 ※ 言語発達障害学Ⅰ ※ 言語発達障害学Ⅱ ※ 言語発達障害学演習Ⅰ ※ 言語発達障害学演習Ⅱ ※ 聴覚障害学Ⅱ ※ 聴覚検査演習 言語聴覚障害演習Ⅰ 言語聴覚障害演習Ⅱ 言語聴覚障害演習Ⅲ 学外評価臨床実習 学外総合臨床実習 専門ゼミⅠ 専門ゼミⅡ 専門ゼミⅢ 専門ゼミⅣ			
専任	講師	戸高 翼 (39) <令和2年4月> 修士(保健科学) 基礎演習Ⅰ 基礎演習Ⅱ 耳鼻咽喉科学 ※ 言語聴覚障害総論 ※ 言語発達障害学Ⅰ ※ 言語発達障害学Ⅱ ※ 言語発達障害学演習Ⅰ ※ 言語発達障害学演習Ⅱ ※ 聴覚障害学Ⅱ ※ 聴覚検査演習 言語聴覚障害演習Ⅰ 言語聴覚障害演習Ⅱ 言語聴覚障害演習Ⅲ 学外評価臨床実習 学外総合臨床実習 専門ゼミⅠ 専門ゼミⅡ 専門ゼミⅢ 専門ゼミⅣ	専任	講師	戸高 翼 (40) <令和2年4月> 修士(保健科学) 基礎演習Ⅰ 基礎演習Ⅱ 耳鼻咽喉科学 ※ 言語聴覚障害総論 ※ 言語発達障害学Ⅰ ※ 言語発達障害学Ⅱ ※ 言語発達障害学演習Ⅰ ※ 言語発達障害学演習Ⅱ ※ 聴覚障害学Ⅱ ※ 聴覚検査演習 言語聴覚障害演習Ⅰ 言語聴覚障害演習Ⅱ 言語聴覚障害演習Ⅲ 学外評価臨床実習 学外総合臨床実習 専門ゼミⅠ 専門ゼミⅡ 専門ゼミⅢ 専門ゼミⅣ	専任	講師	戸高 翼 (41) <令和2年4月> 修士(保健科学) 医療・福祉連携講座 ※ 基礎演習Ⅰ 基礎演習Ⅱ 耳鼻咽喉科学 ※ 言語聴覚障害総論 ※ 言語発達障害学Ⅰ ※ 言語発達障害学Ⅱ ※ 言語発達障害学演習Ⅰ ※ 言語発達障害学演習Ⅱ ※ 聴覚障害学Ⅰ ※ 聴覚障害学Ⅱ ※ 聴覚検査演習 言語聴覚障害演習Ⅰ 言語聴覚障害演習Ⅱ 言語聴覚障害演習Ⅲ 学外評価臨床実習 学外総合臨床実習 専門ゼミⅠ 専門ゼミⅡ 専門ゼミⅢ 専門ゼミⅣ			
							専任	講師 内藤 健一 (48) <令和2年4月> 修士(社会学) 基礎演習Ⅰ 基礎演習Ⅱ 知覚・認知心理学 心理測定法演習 言語聴覚障害診断学 ※ 言語聴覚障害演習Ⅰ 言語聴覚障害演習Ⅱ 言語聴覚障害演習Ⅲ 学外評価臨床実習 学外総合臨床実習 基礎ゼミⅠ 基礎ゼミⅡ 専門ゼミⅠ 専門ゼミⅡ 専門ゼミⅢ 専門ゼミⅣ			
専任	講師	内藤 健一 (49) <令和2年4月> 修士(社会学) 基礎演習Ⅰ 基礎演習Ⅱ 知覚・認知心理学 心理測定法演習 言語聴覚障害診断学 ※ 言語聴覚障害演習Ⅰ 言語聴覚障害演習Ⅱ 言語聴覚障害演習Ⅲ 学外評価臨床実習 学外総合臨床実習 基礎ゼミⅠ 基礎ゼミⅡ 専門ゼミⅠ 専門ゼミⅡ 専門ゼミⅢ 専門ゼミⅣ	専任	講師	内藤 健一 (50) <令和2年4月> 修士(社会学) 基礎演習Ⅰ 基礎演習Ⅱ 知覚・認知心理学 心理測定法演習 言語聴覚障害診断学 ※ 言語聴覚障害演習Ⅰ 言語聴覚障害演習Ⅱ 言語聴覚障害演習Ⅲ 学外評価臨床実習 学外総合臨床実習 基礎ゼミⅠ 基礎ゼミⅡ 専門ゼミⅠ 専門ゼミⅡ 専門ゼミⅢ 専門ゼミⅣ	専任	講師	内藤 健一 (51) <令和2年4月> 修士(社会学) データサイエンスⅠ ※ 基礎演習Ⅰ 基礎演習Ⅱ 心連学研究法 知覚・認知心理学 心理測定法演習 言語聴覚障害診断学 ※ 言語聴覚障害演習Ⅰ 言語聴覚障害演習Ⅱ 言語聴覚障害演習Ⅲ 学外評価臨床実習 学外総合臨床実習 基礎ゼミⅠ 基礎ゼミⅡ 専門ゼミⅠ 専門ゼミⅡ 専門ゼミⅢ 専門ゼミⅣ			
兼任	教授	園田 徹 (65) <令和2年4月> 医学博士 QOLと人間の尊厳 臨床医学	兼任	教授	園田 徹 (66) <令和2年4月> 医学博士 QOLと人間の尊厳 臨床医学	兼任	教授	園田 徹 (67) <令和2年4月> 医学博士 QOLと人間の尊厳 臨床医学			
兼任	教授	樋口 博之 (52) <令和2年4月> 博士(医学) 生涯スポーツ論 生涯スポーツ実習Ⅰ 生涯スポーツ実習Ⅱ	兼任	教授	樋口 博之 (53) <令和2年4月> 博士(医学) 生涯スポーツ論 生涯スポーツ実習Ⅰ 生涯スポーツ実習Ⅱ	兼任	教授	樋口 博之 (54) <令和2年4月> 博士(医学) 生涯スポーツ論 生涯スポーツ実習Ⅰ 生涯スポーツ実習Ⅱ	兼任	教授	樋口 博之 (55) <令和2年4月> 博士(医学) 生涯スポーツ論 生涯スポーツ実習Ⅰ 生涯スポーツ実習Ⅱ

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	担当授業科目名
兼任	教授	池脇 信直 (62) <令和2年4月> 医学博士	生物学
兼任	教授	川野 純一 (65) <令和2年4月> 医学博士	解剖学
兼任	教授	稲田 弘子 (59) <令和2年4月> 修士(社会福祉学)	人体の構造と機能及び疾病 ※ 保健医療サービス 認知症の理解Ⅰ 認知症の理解Ⅱ
兼任	教授	川崎 順子 (59) <令和2年4月> 博士(社会福祉学)	相談援助の基盤と専門職Ⅰ 相談援助の基盤と専門職Ⅱ 相談援助演習Ⅰ 相談援助演習Ⅱ 相談援助演習Ⅲ 相談援助演習Ⅳ 相談援助演習Ⅴ 相談援助実習指導Ⅰ 相談援助実習指導Ⅱ 相談援助実習指導Ⅲ 相談援助実習 医療ソーシャルワーク論 チーム医療概論 医療ソーシャルワーク実習指導 医療ソーシャルワーク実習 時事福祉学 連携実践演習

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	担当授業科目名
兼任	教授	池脇 信直 (63) <令和2年4月> 医学博士	QOLと人間の尊厳 生物学
兼任	教授	川野 純一 (66) <令和2年4月> 医学博士	解剖学
兼任	教授	稲田 弘子 (60) <令和2年4月> 修士(社会福祉学)	人体の構造と機能及び疾病—※ 保健医療サービス 認知症の理解Ⅰ 認知症の理解Ⅱ
兼任	教授	川崎 順子 (60) <令和2年4月> 博士(社会福祉学)	相談援助の基盤と専門職Ⅰ 相談援助の基盤と専門職Ⅱ 相談援助演習Ⅰ 相談援助演習Ⅱ 相談援助演習Ⅲ 相談援助演習Ⅳ 相談援助演習Ⅴ 相談援助実習指導Ⅰ 相談援助実習指導Ⅱ 相談援助実習指導Ⅲ 相談援助実習 医療ソーシャルワーク論 チーム医療概論 医療ソーシャルワーク実習指導 医療ソーシャルワーク実習 時事福祉学 連携実践演習

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	担当授業科目名
兼任	教授	池脇 信直 (64) <令和2年4月> 医学博士	QOLと人間の尊厳 生物学
兼任	教授	川野 純一 (67) <令和2年4月> 医学博士	解剖学
兼任	教授	稲田 弘子 (61) <令和2年4月> 修士(社会福祉学)	人体の構造と機能及び疾病—※ 保健医療と福祉 保健医療サービス 認知症の理解Ⅰ 認知症の理解Ⅱ
兼任	教授	川崎 順子 (61) <令和2年4月> 博士(社会福祉学)	ソーシャルワークの基盤と専門職Ⅰ 相談援助の基盤と専門職Ⅰ ソーシャルワークの基盤と専門職Ⅱ 相談援助の基盤と専門職Ⅱ ソーシャルワーク演習Ⅰ 相談援助演習Ⅰ ソーシャルワーク演習Ⅱ 相談援助演習Ⅱ ソーシャルワーク演習Ⅲ 相談援助演習Ⅲ ソーシャルワーク演習Ⅳ 相談援助演習Ⅳ ソーシャルワーク演習Ⅴ 相談援助演習Ⅴ ソーシャルワーク実習指導Ⅰ 相談援助実習指導Ⅰ ソーシャルワーク実習指導Ⅱ 相談援助実習指導Ⅱ ソーシャルワーク実習指導Ⅲ 相談援助実習指導Ⅲ ソーシャルワーク実習Ⅰ ソーシャルワーク実習Ⅱ 相談援助実習 医療ソーシャルワーク論 チーム医療概論 医療ソーシャルワーク実習指導 医療ソーシャルワーク実習 時事福祉学Ⅰ 時事福祉学Ⅱ 時事福祉学 連携実践演習

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	担当授業科目名
兼任	教授	池脇 信直 (65) <令和2年4月> 医学博士	データサイエンスⅠ ※ QOLと人間の尊厳 生物学
兼任	教授	近藤 照義 (68) <令和4年4月> 医学博士・歯学博士	生物学
兼任	講師	川野 純一 (68) <令和4年4月> 医学博士	解剖学
兼任	教授	稲田 弘子 (62) <令和2年4月> 修士(社会福祉学)	医療・福祉連携講座 ※ 人体の構造と機能及び疾病—※ 保健医療と福祉 保健医療サービス 認知症の理解Ⅰ 認知症の理解Ⅱ
兼任	教授	川崎 順子 (62) <令和2年4月> 博士(社会福祉学)	相談援助の基盤と専門職Ⅰ 相談援助の基盤と専門職Ⅰ ソーシャルワークの基盤と専門職Ⅱ 相談援助の基盤と専門職Ⅱ ソーシャルワーク演習Ⅰ 相談援助演習Ⅰ ソーシャルワーク演習Ⅱ 相談援助演習Ⅱ ソーシャルワーク演習Ⅲ 相談援助演習Ⅲ ソーシャルワーク演習Ⅳ 相談援助演習Ⅳ ソーシャルワーク演習Ⅴ 相談援助演習Ⅴ ソーシャルワーク実習指導Ⅰ 相談援助実習指導Ⅰ ソーシャルワーク実習指導Ⅱ 相談援助実習指導Ⅱ ソーシャルワーク実習指導Ⅲ 相談援助実習指導Ⅲ ソーシャルワーク実習Ⅰ ソーシャルワーク実習Ⅱ 相談援助実習 医療ソーシャルワーク論 チーム医療概論 医療ソーシャルワーク実習指導 医療ソーシャルワーク実習 時事福祉学Ⅰ 時事福祉学Ⅱ 時事福祉学 連携実践演習
兼任	教授	正野 知基 (57) <令和4年4月> 博士(人間環境学)	医療・福祉連携講座 ※
兼任	教授	渡邊 一平 (68) <令和4年4月> 医学博士	医療・福祉連携講座 ※
兼任	教授	山本 成郎 (63) <令和4年4月> 博士(医学)	医療・福祉連携講座 ※
兼任	教授	楠木 一美 (68) <令和4年4月> 博士(医学)	医療・福祉連携講座 ※
兼任	教授	竹澤 真吾 (66) <令和4年4月> 工学博士	医療・福祉連携講座 ※

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	担当授業科目名	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	担当授業科目名	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	担当授業科目名
								兼任	教授	明石 敏 (67) <令和4年4月> 博士(医学)	医療・福祉連携講座 ※
兼任	准教授	山内 利秋 (52) <令和2年4月> 修士(歴史学)	情報処理入門 情報処理演習	兼任	准教授	山内 利秋 (53) <令和2年4月> 修士(歴史学)	情報処理入門 情報処理演習	兼任	准教授	山内 利秋 (55) <令和2年4月> 修士(歴史学)	情報処理入門 データサイエンスⅠ ※ データサイエンスⅡ 情報処理演習
兼任	准教授	山崎 睦男 (63) <令和2年4月> 社会学士	ボランティア活動 地域福祉の理論と方法Ⅰ 地域福祉の理論と方法Ⅱ 福祉行政と福祉計画 福祉サービスの組織と運営 相談援助実習指導Ⅰ 相談援助実習指導Ⅱ 相談援助実習指導Ⅲ 福祉援助実習 時事福祉学	兼任	准教授	山崎 睦男 (64) <令和2年4月> 社会学士	ボランティア活動 地域福祉の理論と方法Ⅰ 地域福祉の理論と方法Ⅱ 福祉行政と福祉計画 福祉サービスの組織と運営 相談援助実習指導Ⅰ 相談援助実習指導Ⅱ 相談援助実習指導Ⅲ 福祉援助実習 時事福祉学	兼任	准教授	山崎 睦男 (65) <令和2年4月> 社会学士	ボランティア活動 地域福祉と包括的支援体制Ⅰ 地域福祉の理論と方法Ⅰ 地域福祉と包括的支援体制Ⅱ 地域福祉の理論と方法Ⅱ 福祉行政と福祉計画 福祉サービスの組織と運営 ソーシャルワーク実習指導Ⅰ 相談援助実習指導Ⅰ ソーシャルワーク実習指導Ⅱ 相談援助実習指導Ⅱ ソーシャルワーク実習指導Ⅲ 相談援助実習指導Ⅲ ソーシャルワーク実習Ⅰ ソーシャルワーク実習Ⅱ 福祉援助実習 時事福祉学Ⅰ 時事福祉学
								兼任	講師	山崎 睦男 (66) <令和2年4月> 社会学士	地域福祉と包括的支援体制Ⅰ 地域福祉の理論と方法Ⅰ 地域福祉と包括的支援体制Ⅱ 地域福祉の理論と方法Ⅱ 福祉行政と福祉計画 福祉サービスの組織と運営 時事福祉学Ⅰ 時事福祉学Ⅱ 時事福祉学
兼任	准教授	登坂 学 (54) <令和2年4月> 修士(教育学)	中国語Ⅰ 中国語Ⅱ 日本語Ⅰ 日本語Ⅱ 日本語Ⅲ 日本語Ⅳ 日本語総合講座Ⅰa 日本語総合講座Ⅰb 日本語総合講座Ⅱa 日本語総合講座Ⅱb	兼任	准教授	登坂 学 (55) <令和2年4月> 修士(教育学)	中国語Ⅰ 中国語Ⅱ 日本語Ⅰ 日本語Ⅱ 日本語Ⅲ 日本語Ⅳ 日本語総合講座Ⅰa 日本語総合講座Ⅰb 日本語総合講座Ⅱa 日本語総合講座Ⅱb	兼任	准教授	登坂 学 (56) <令和2年4月> 修士(教育学)	中国語Ⅰ 中国語Ⅱ 日本語Ⅰ 日本語Ⅱ 日本語Ⅲ 日本語Ⅳ 日本語総合講座Ⅰa 日本語総合講座Ⅰb 日本語総合講座Ⅱa 日本語総合講座Ⅱb
兼任	准教授	山本 順之 (44) <令和2年4月> 博士(スポーツ健康科学)	社会学	兼任	准教授	山本 順之 (45) <令和2年4月> 博士(スポーツ健康科学)	社会学	兼任	准教授	山本 順之 (47) <令和2年4月> 博士(スポーツ健康科学)	社会学
兼任	准教授	松田 智香子 (50) <令和2年4月> 博士(学術)	健康科学論 レクリエーション実技	兼任	准教授	松田 智香子 (51) <令和2年4月> 博士(学術)	健康科学論 レクリエーション実技	兼任	准教授	松田 智香子 (53) <令和2年4月> 博士(学術)	健康科学論 レクリエーション論 レクリエーション実技
兼任	准教授	三宮 基裕 (47) <令和3年4月> 博士(工学)	社会調査の基礎 相談援助実習指導Ⅰ 相談援助実習指導Ⅱ 相談援助実習指導Ⅲ 相談援助実習 福祉住環境論	兼任	准教授	三宮 基裕 (48) <令和3年4月> 博士(工学)	社会調査の基礎 相談援助実習指導Ⅰ 相談援助実習指導Ⅱ 相談援助実習指導Ⅲ 相談援助実習 福祉住環境論	兼任	教授	三宮 基裕 (49) <令和3年4月> 博士(工学)	社会福祉調査の基礎 社会調査の基礎 ソーシャルワーク実習指導Ⅰ 相談援助実習指導Ⅰ ソーシャルワーク実習指導Ⅱ 相談援助実習指導Ⅱ ソーシャルワーク実習指導Ⅲ 相談援助実習指導Ⅲ ソーシャルワーク実習Ⅰ ソーシャルワーク実習Ⅱ 相談援助実習 福祉住環境論
								兼任	准教授	續方 賢次 (48) <令和4年4月> 博士(薬学)	医療・福祉連携講座 ※
								兼任	准教授	楢本 典雄 (49) <令和4年4月> 博士(獣医学)	医療・福祉連携講座 ※
								兼任	准教授	宮本 朋伸 (49) <令和4年4月> 医学博士	医療・福祉連携講座 ※

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	担当授業科目名	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	担当授業科目名	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	担当授業科目名
								兼任	准教授	長瀬 純二 (63) <令和4年4月> 医学博士	医療・福祉連携講座 ※
								兼任	准教授	瀧美 聡幸 (39) <令和4年4月> 博士(創薬科学)	日向園地域体験学習
兼任	講師	清水 径子 (38) <令和2年4月> 博士(社会福祉学)	コミュニケーション論 相談援助実習指導Ⅰ 相談援助実習指導Ⅱ 相談援助実習指導Ⅲ 相談援助実習 時事福祉学	兼任	講師	清水 径子 (39) <令和2年4月> 博士(社会福祉学)	コミュニケーション論 相談援助実習指導Ⅰ 相談援助実習指導Ⅱ 相談援助実習指導Ⅲ 相談援助実習 時事福祉学	兼任	講師	清水 径子 (41) <令和2年4月> 博士(社会福祉学)	コミュニケーション論 介護概論 ソーシャルワーク実習指導Ⅰ 相談援助実習指導Ⅰ ソーシャルワーク実習指導Ⅱ 相談援助実習指導Ⅱ ソーシャルワーク実習指導Ⅲ 相談援助実習指導Ⅲ ソーシャルワーク実習Ⅰ ソーシャルワーク実習Ⅱ 相談援助実習 時事福祉学Ⅰ 時事福祉学Ⅱ 時事福祉学
兼任	講師	貴 優美子 (57) <令和2年4月> 修士(社会福祉学)	人体の構造と機能及び疾病 ※ 相談援助実習Ⅲ 相談援助実習Ⅳ 相談援助実習指導Ⅰ 相談援助実習指導Ⅱ 相談援助実習指導Ⅲ 相談援助実習 医療ソーシャルワーク論 チーム医療概論 医療ソーシャルワーク実習指導 医療ソーシャルワーク実習	兼任	講師	貴 優美子 (58) <令和2年4月> 修士(社会福祉学)	人体の構造と機能及び疾病 ※ 相談援助実習Ⅲ 相談援助実習Ⅳ 相談援助実習指導Ⅰ 相談援助実習指導Ⅱ 相談援助実習指導Ⅲ 相談援助実習 医療ソーシャルワーク論 チーム医療概論 医療ソーシャルワーク実習指導 医療ソーシャルワーク実習	兼任	講師	貴 優美子 (60) <令和2年4月> 修士(社会福祉学)	人体の構造と機能及び疾病 ※ ソーシャルワーク実習Ⅲ 相談援助実習Ⅲ ソーシャルワーク実習Ⅳ 相談援助実習Ⅳ ソーシャルワーク実習指導Ⅰ 相談援助実習指導Ⅰ ソーシャルワーク実習指導Ⅱ 相談援助実習指導Ⅱ ソーシャルワーク実習指導Ⅲ 相談援助実習指導Ⅲ ソーシャルワーク実習Ⅰ ソーシャルワーク実習Ⅱ 相談援助実習 医療ソーシャルワーク論 チーム医療概論 医療ソーシャルワーク実習指導 医療ソーシャルワーク実習
兼任	講師	日田 剛 (41) <令和2年4月> 修士(社会福祉学)	インターンシップⅠ インターンシップⅡ インターンシップⅢ 低所得者に対する支援と生活保護制度 権利擁護と成年後見制度 更生保護制度 相談援助実習指導Ⅰ 相談援助実習指導Ⅱ 相談援助実習指導Ⅲ 相談援助実習 時事福祉学	兼任	講師	日田 剛 (42) <令和2年4月> 修士(社会福祉学)	インターンシップⅠ インターンシップⅡ インターンシップⅢ 低所得者に対する支援と生活保護制度 権利擁護と成年後見制度 更生保護制度 相談援助実習指導Ⅰ 相談援助実習指導Ⅱ 相談援助実習指導Ⅲ 相談援助実習 時事福祉学	兼任	講師	日田 剛 (43) <令和2年4月> 修士(社会福祉学)	インターンシップⅠ インターンシップⅡ インターンシップⅢ 実困に対する支援 低所得者に対する支援と生活保護制度 権利擁護を支える法制度 権利擁護と成年後見制度 刑事司法と福祉 更生保護制度 ソーシャルワーク実習指導Ⅰ 相談援助実習指導Ⅰ ソーシャルワーク実習指導Ⅱ 相談援助実習指導Ⅱ ソーシャルワーク実習指導Ⅲ 相談援助実習指導Ⅲ ソーシャルワーク実習Ⅰ ソーシャルワーク実習Ⅱ スクールソーシャルワーク論 スクールソーシャルワーク実習 相談援助実習 時事福祉学Ⅰ 時事福祉学Ⅱ 時事福祉学
兼任	講師	松原 由美 (60) <令和3年4月> 教育学修士	相談援助実習指導Ⅰ 相談援助実習指導Ⅱ 相談援助実習指導Ⅲ 相談援助実習	兼任	講師	松原 由美 (61) <令和3年4月> 教育学修士	相談援助実習指導Ⅰ 相談援助実習指導Ⅱ 相談援助実習指導Ⅲ 相談援助実習	兼任	講師	松原 由美 (62) <令和3年4月> 教育学修士	ソーシャルワーク実習指導Ⅰ 相談援助実習指導Ⅰ ソーシャルワーク実習指導Ⅱ 相談援助実習指導Ⅱ ソーシャルワーク実習指導Ⅲ 相談援助実習指導Ⅲ ソーシャルワーク実習Ⅰ ソーシャルワーク実習Ⅱ 相談援助実習
兼任	講師	西田 美香 (48) <令和3年4月> 修士(社会福祉学)	相談援助実習Ⅰ 相談援助実習Ⅱ 相談援助実習Ⅴ 時事福祉学	兼任	講師	西田 美香 (49) <令和3年4月> 修士(社会福祉学)	相談援助実習Ⅰ 相談援助実習Ⅱ 相談援助実習Ⅴ 時事福祉学	兼任	講師	西田 美香 (50) <令和3年4月> 修士(社会福祉学)	ソーシャルワーク実習Ⅰ 相談援助実習Ⅰ ソーシャルワーク実習Ⅱ 相談援助実習Ⅱ ソーシャルワーク実習Ⅴ 相談援助実習Ⅴ 時事福祉学Ⅰ 時事福祉学Ⅱ 時事福祉学
								兼任	講師	井藤 英俊 (48) <令和4年4月> 修士(体育学)	データサイエンスⅠ ※

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	担当授業科目名	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	担当授業科目名	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	担当授業科目名
								兼任	講師	黒須 依子 (58) <令和4年4月> 修士(社会福祉学)	
								兼任	講師	日向園地域体験学習 ソーシャルワーク実習指導Ⅰ ソーシャルワーク実習指導Ⅱ ソーシャルワーク実習指導Ⅲ ソーシャルワーク実習Ⅰ ソーシャルワーク実習Ⅱ	
								兼任	講師	杉田 千春 (37) <令和4年4月> 博士(医学)	
										医療・福祉連携講座 ※	
								兼任	講師	中村 賢一 (38) <令和4年4月> 博士(薬学)	
										医療・福祉連携講座 ※	
								兼任	講師	長野 貴之 (44) <令和4年4月> 博士(医学)	
										医療・福祉連携講座 ※	
								兼任	講師	正木 美佳 (46) <令和4年4月> 修士(農学)	
										医療・福祉連携講座 ※	
								兼任	講師	宮内 亜宣 (39) <令和4年4月> 博士(医療薬学)	
										日向園地域体験学習	
								兼任	講師	西森 誠 (35) <令和4年4月> 博士(工学)	
										日向園地域体験学習	
								兼任	講師	藤原 幸子 (60) <令和4年4月> 社会学修士	
										児童・家庭福祉	
兼任	講師	山崎 知佳 (39) <令和3年4月> 法務博士	日本国憲法 関係行政論 社会保障Ⅰ 社会保障Ⅱ	兼任	講師	山崎 知佳 (40) <令和3年4月> 法務博士	日本国憲法 関係行政論 社会保障Ⅰ 社会保障Ⅱ	兼任	講師	山崎 知佳 (42) <令和3年4月> 法務博士	日本国憲法 関係行政論 社会保障Ⅰ 社会保障Ⅱ
兼任	講師	金谷 義弘 (65) <令和3年4月> 博士(経済学)	経済学	兼任	講師	金谷 義弘 (66) <令和3年4月> 博士(経済学)	経済学	兼任	講師	金谷 義弘 (68) <令和3年4月> 博士(経済学)	経済学
兼任	講師	三宅 邦建 (68) <令和2年4月> 心理学博士	心理学研究法 心理学統計法								
				兼任	講師	畑田 健一郎 (33) <令和2年4月> 修士(心理臨床学)	心理学統計法	兼任	講師	畑田 健一郎 (35) <令和2年4月> 修士(心理臨床学)	心理学統計法
兼任	講師	大津 隆一 (72) <令和2年4月> 農学博士	生理・病理学	兼任	講師	大津 隆一 (73) <令和2年4月> 農学博士	生理・病理学				
兼任	講師	有木 正浩 (68) <令和2年4月> 文学士	発達心理学 福祉心理学	兼任	講師	有木 正浩 (69) <令和2年4月> 文学士	発達心理学 福祉心理学	兼任	講師	有木 正浩 (71) <令和2年4月> 文学士	発達心理学 福祉心理学
兼任	講師	辻 正之 (64) <令和3年4月> 医学士	精神疾患とその治療	兼任	講師	辻 正之 (65) <令和3年4月> 医学士	精神疾患とその治療				
								兼任	講師	堀 徹也 (54) <令和3年4月> 医学士	精神疾患とその治療

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	担当授業科目名
兼任	講師	松尾 寿栄 (48) <令和3年4月> 博士(医学)	感情・人格心理学 神経・生理心理学
兼任	講師	藤田 和弘 (78) <令和3年4月> 教育学修士	障害者・障害児心理学
兼任	講師	平川 忠敏 (74) <令和4年4月> 博士(心理学)	健康・医療心理学
兼任	講師	矢島 順 (64) <令和4年4月> 教育学修士	産業・組織心理学
兼任	講師	赤木 保吉 (66) <令和2年4月> 法学士	児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度
兼任	講師	鹿嶋 隆志 (45) <令和2年4月> 福祉心理学士	障害者に対する支援と障害者自立支援制度 相談援助の理論と方法Ⅲ 相談援助の理論と方法Ⅳ 相談援助演習Ⅴ
兼任	講師	兒崎 友美 (39) <令和2年4月> 修士(社会福祉学)	高齢者に対する支援と介護保険制度Ⅰ 高齢者に対する支援と介護保険制度Ⅱ 相談援助の理論と方法Ⅰ 相談援助の理論と方法Ⅱ
兼任	講師	佐島 良一 (66) <令和4年4月> 学士(教育学)	就労支援サービス
兼任	講師	谷口 衛 (56) <令和3年4月> 文学士	相談援助演習Ⅰ 相談援助演習Ⅱ 相談援助演習Ⅲ 相談援助演習Ⅳ
兼任	講師	帖佐 悦男 (63) <令和4年4月> 医学博士	リハビリテーション医学 ※
兼任	講師	鳥取部 光司 (59) <令和4年4月> 医学博士	リハビリテーション医学 ※
兼任	講師	山口 洋一郎 (37) <令和4年4月> 博士(医学)	リハビリテーション医学 ※
兼任	講師	黒木 洋美 (55) <令和4年4月> 医学博士	リハビリテーション医学 ※

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	担当授業科目名
兼任	講師	松尾 寿栄 (49) <令和3年4月> 博士(医学)	感情・人格心理学 神経・生理心理学
兼任	講師	藤田 和弘 (79) <令和3年4月> 教育学修士	障害者・障害児心理学
兼任	講師	平川 忠敏 (75) <令和4年4月> 博士(心理学)	健康・医療心理学
兼任	講師	矢島 順 (65) <令和4年4月> 教育学修士	産業・組織心理学
兼任	講師	赤木 保吉 (67) <令和2年4月> 法学士	児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度
兼任	講師	鹿嶋 隆志 (46) <令和2年4月> 福祉心理学士	障害者に対する支援と障害者自立支援制度 相談援助の理論と方法Ⅲ 相談援助の理論と方法Ⅳ 相談援助演習Ⅴ
兼任	講師	兒崎 友美 (40) <令和2年4月> 修士(社会福祉学)	高齢者に対する支援と介護保険制度Ⅰ 高齢者に対する支援と介護保険制度Ⅱ 相談援助の理論と方法Ⅰ 相談援助の理論と方法Ⅱ
兼任	講師	佐島 良一 (67) <令和4年4月> 学士(教育学)	就労支援サービス
兼任	講師	谷口 衛 (56) <令和3年4月> 文学士	相談援助演習Ⅰ 相談援助演習Ⅱ 相談援助演習Ⅲ 相談援助演習Ⅳ
兼任	講師	帖佐 悦男 (64) <令和4年4月> 医学博士	リハビリテーション医学 ※
兼任	講師	鳥取部 光司 (60) <令和4年4月> 医学博士	リハビリテーション医学 ※
兼任	講師	山口 洋一郎 (38) <令和4年4月> 博士(医学)	リハビリテーション医学 ※
兼任	講師	黒木 洋美 (56) <令和4年4月> 医学博士	リハビリテーション医学 ※

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	担当授業科目名
兼任	講師	松尾 寿栄 (50) <令和3年4月> 博士(医学)	感情・人格心理学 ※ 神経・生理心理学
兼任	講師	藤田 和弘 (80) <令和3年4月> 教育学修士	障害者・障害児心理学
兼任	講師	平川 忠敏 (76) <令和4年4月> 博士(心理学)	健康・医療心理学
兼任	講師	矢島 順 (66) <令和4年4月> 教育学修士	産業・組織心理学
兼任	講師	赤木 保吉 (68) <令和2年4月> 法学士	児童・家庭福祉 児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度
兼任	講師	鹿嶋 隆志 (47) <令和2年4月> 福祉心理学士	障害者福祉 障害者に対する支援と障害者自立支援制度 ソーシャルワークの理論と方法Ⅲ 相談援助の理論と方法Ⅲ ソーシャルワークの理論と方法Ⅳ 相談援助の理論と方法Ⅳ ソーシャルワーク演習Ⅴ 相談援助演習Ⅴ
兼任	講師	兒崎 友美 (41) <令和2年4月> 修士(社会福祉学)	高齢者福祉 高齢者に対する支援と介護保険制度Ⅰ 高齢者に対する支援と介護保険制度Ⅱ ソーシャルワークの理論と方法Ⅰ 相談援助の理論と方法Ⅰ ソーシャルワークの理論と方法Ⅱ 相談援助の理論と方法Ⅱ
兼任	講師	佐島 良一 (67) <令和4年4月> 学士(教育学)	就労支援サービス ソーシャルワーク演習Ⅰ 相談援助演習Ⅰ ソーシャルワーク演習Ⅱ 相談援助演習Ⅱ ソーシャルワーク演習Ⅲ 相談援助演習Ⅲ ソーシャルワーク演習Ⅳ 相談援助演習Ⅳ
兼任	講師	帖佐 悦男 (65) <令和4年4月> 医学博士	リハビリテーション医学 ※
兼任	講師	鳥取部 光司 (61) <令和4年4月> 医学博士	リハビリテーション医学 ※
兼任	講師	山口 洋一郎 (39) <令和4年4月> 博士(医学)	リハビリテーション医学 ※
兼任	講師	黒木 洋美 (57) <令和4年4月> 医学博士	リハビリテーション医学 ※

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	担当授業科目名
兼任	講師	松尾 寿栄 (51) <令和3年4月> 博士(医学)	感情・人格心理学 ※ 神経・生理心理学
兼任	講師	藤田 和弘 (80) <令和3年4月> 教育学修士	障害者・障害児心理学
兼任	講師	平川 忠敏 (77) <令和4年4月> 博士(心理学)	健康・医療心理学
兼任	講師	矢島 順 (67) <令和4年4月> 教育学修士	産業・組織心理学
兼任	講師	鹿嶋 隆志 (48) <令和2年4月> 福祉心理学士	障害者福祉 障害者に対する支援と障害者自立支援制度 ソーシャルワークの理論と方法Ⅲ 相談援助の理論と方法Ⅲ ソーシャルワークの理論と方法Ⅳ 相談援助の理論と方法Ⅳ ソーシャルワーク演習Ⅴ 相談援助演習Ⅴ
兼任	講師	兒崎 友美 (42) <令和2年4月> 修士(社会福祉学)	高齢者福祉 高齢者に対する支援と介護保険制度Ⅰ 高齢者に対する支援と介護保険制度Ⅱ ソーシャルワークの理論と方法Ⅰ 相談援助の理論と方法Ⅰ ソーシャルワークの理論と方法Ⅱ 相談援助の理論と方法Ⅱ
兼任	講師	佐島 良一 (67) <令和4年4月> 学士(教育学)	就労支援サービス ソーシャルワーク演習Ⅰ 相談援助演習Ⅰ ソーシャルワーク演習Ⅱ 相談援助演習Ⅱ ソーシャルワーク演習Ⅲ 相談援助演習Ⅲ ソーシャルワーク演習Ⅳ 相談援助演習Ⅳ
兼任	講師	帖佐 悦男 (66) <令和4年4月> 医学博士	リハビリテーション医学 ※
兼任	講師	鳥取部 光司 (62) <令和4年4月> 医学博士	リハビリテーション医学 ※
兼任	講師	山口 洋一郎 (40) <令和4年4月> 博士(医学)	リハビリテーション医学 ※
兼任	講師	黒木 洋美 (58) <令和4年4月> 医学博士	リハビリテーション医学 ※

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	担当授業科目名
兼任	講師	島田 亜紀 (44) <令和3年4月> 学士(医学)	耳鼻咽喉科学 ※
兼任	講師	宇高 二良 (69) <令和3年4月> 医学博士	聴覚・発声発語系の構造、機能、病態
兼任	講師	山田 弘幸 (65) <令和3年4月> 心理学修士	音響学・聴覚心理学
兼任	講師	飯干 紀代子 (57) <令和3年4月> 博士(保健科学)	高次脳機能障害学 ※
兼任	講師	岩崎 まり子 (72) <令和3年4月> 教育学士	言語発達障害学Ⅰ ※ 言語発達障害学Ⅱ ※ 言語発達障害学演習Ⅱ ※
兼任	講師	倉井 成子 (77) <令和3年4月> 外国研究学士	言語発達障害学Ⅱ ※ 言語発達障害学演習Ⅱ ※
兼任	講師	土屋 美智子 (51) <令和3年4月> 教育学士	発声発語障害学 ※
兼任	講師	兒玉 成博 (36) <令和3年4月> 博士(医学)	発声発語障害学 ※
兼任	講師	吉田 美智子 (52) <令和3年4月> 専修学校卒	発声発語障害学演習Ⅰ ※
兼任	講師	山口 大樹 (37) <令和3年4月> 学士(歯学)	嚥下障害学Ⅰ ※ 嚥下障害学演習 ※
兼任	講師	重田 律子 (54) <令和3年4月> 教育学士	嚥下障害学演習 ※
兼任	講師	石川 一葉 (39) <令和3年4月> 学士(保健科学)	補聴器・人工内耳 ※
兼任	講師	山口 光昭 (51) <令和2年4月> 獣医学博士	動物生態学
兼任	講師	綾部 ゆみ子 (63) <令和3年4月> 専修学校卒	動物適正飼養・トレーニング学 動物トレーニング実習
兼任	講師	谷口 勇一 (51) <令和3年4月> 教育学修士	レクリエーション論

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	担当授業科目名
兼任	講師	島田 亜紀 (45) <令和3年4月> 学士(医学)	耳鼻咽喉科学 ※
兼任	講師	宇高 二良 (70) <令和3年4月> 医学博士	聴覚・発声発語系の構造、機能、病態
兼任	講師	山田 弘幸 (66) <令和4年4月> 心理学修士	音響学・聴覚心理学
兼任	講師	飯干 紀代子 (58) <令和3年4月> 博士(保健科学)	高次脳機能障害学 ※
兼任	講師	岩崎 まり子 (73) <令和3年4月> 教育学士	言語発達障害学Ⅰ ※ 言語発達障害学Ⅱ ※ 言語発達障害学演習Ⅱ ※
兼任	講師	倉井 成子 (78) <令和3年4月> 外国研究学士	言語発達障害学Ⅱ ※ 言語発達障害学演習Ⅱ ※
兼任	講師	土屋 美智子 (52) <令和3年4月> 教育学士	発声発語障害学 ※
兼任	講師	兒玉 成博 (37) <令和3年4月> 博士(医学)	発声発語障害学 ※
兼任	講師	吉田 美智子 (53) <令和3年4月> 専修学校卒	発声発語障害学演習Ⅰ ※
兼任	講師	山口 大樹 (38) <令和3年4月> 学士(歯学)	嚥下障害学Ⅰ ※ 嚥下障害学演習 ※
兼任	講師	重田 律子 (55) <令和3年4月> 教育学士	嚥下障害学演習 ※
兼任	講師	石川 一葉 (40) <令和3年4月> 学士(保健科学)	補聴器・人工内耳 ※
兼任	講師	山口 光昭 (52) <令和2年4月> 獣医学博士	動物生態学
兼任	講師	綾部 ゆみ子 (64) <令和3年4月> 専修学校卒	動物適正飼養・トレーニング学 動物トレーニング実習
兼任	講師	谷口 勇一 (52) <令和3年4月> 教育学修士	レクリエーション論

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	担当授業科目名
兼任	講師	島田 亜紀 (46) <令和3年4月> 学士(医学)	耳鼻咽喉科学 ※
兼任	講師	宇高 二良 (71) <令和3年4月> 医学博士	聴覚・発声発語系の構造、機能、病態 ※
兼任	講師	留守 卓也 (60) <令和3年4月> 医学博士	聴覚・発声発語系の構造、機能、病態 ※
兼任	講師	山田 弘幸 (67) <令和4年4月> 心理学修士	音響学・聴覚心理学
兼任	講師	飯干 紀代子 (59) <令和3年4月> 博士(保健科学)	高次脳機能障害学 ※
兼任	講師	岩崎 まり子 (74) <令和3年4月> 教育学士	言語発達障害学Ⅰ ※ 言語発達障害学Ⅱ ※ 言語発達障害学演習Ⅱ ※
兼任	講師	倉井 成子 (79) <令和3年4月> 外国研究学士	言語発達障害学Ⅱ ※ 言語発達障害学演習Ⅱ ※
兼任	講師	土屋 美智子 (53) <令和3年4月> 教育学士	発声発語障害学 ※
兼任	講師	兒玉 成博 (38) <令和3年4月> 博士(医学)	発声発語障害学 ※
兼任	講師	吉田 美智子 (54) <令和3年4月> 専修学校卒	発声発語障害学演習Ⅰ ※
兼任	講師	山口 大樹 (39) <令和3年4月> 学士(歯学)	嚥下障害学Ⅰ ※ 嚥下障害学演習 ※
兼任	講師	重田 律子 (56) <令和3年4月> 教育学士	嚥下障害学演習 ※
兼任	講師	石川 一葉 (41) <令和3年4月> 学士(保健科学)	補聴器・人工内耳 ※
兼任	講師	山口 光昭 (53) <令和2年4月> 獣医学博士	動物生態学
兼任	講師	綾部 ゆみ子 (65) <令和3年4月> 専修学校卒	動物適正飼養・トレーニング学 動物トレーニング実習
兼任	講師	谷口 勇一 (53) <令和3年4月> 教育学修士	レクリエーション論
兼任	講師	佐藤 秀夫 (48) <令和3年4月> 博士(歯学)	嚥下障害学Ⅰ ※

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	担当授業科目名
兼任	講師	島田 亜紀 (47) <令和3年4月> 学士(医学)	耳鼻咽喉科学 ※
兼任	講師	留守 卓也 (51) <令和4年4月> 医学博士	聴覚・発声発語系の構造、機能、病態 ※
兼任	講師	山田 弘幸 (68) <令和4年4月> 心理学修士	音響学・聴覚心理学
兼任	講師	飯干 紀代子 (60) <令和3年4月> 博士(保健科学)	高次脳機能障害学 ※
兼任	講師	岩崎 まり子 (75) <令和3年4月> 教育学士	言語発達障害学Ⅰ ※ 言語発達障害学Ⅱ ※ 言語発達障害学演習Ⅱ ※
兼任	講師	土屋 美智子 (54) <令和3年4月> 教育学士	発声発語障害学 ※
兼任	講師	兒玉 成博 (39) <令和3年4月> 博士(医学)	発声発語障害学 ※
兼任	講師	山口 大樹 (40) <令和3年4月> 学士(歯学)	嚥下障害学Ⅰ ※ 嚥下障害学演習 ※
兼任	講師	石川 一葉 (42) <令和3年4月> 学士(保健科学)	補聴器・人工内耳 ※
兼任	講師	山口 光昭 (54) <令和2年4月> 獣医学博士	動物生態学
兼任	講師	綾部 ゆみ子 (66) <令和3年4月> 専修学校卒	動物適正飼養・トレーニング学 動物トレーニング実習
兼任	講師	佐藤 秀夫 (48) <令和3年4月> 博士(歯学)	嚥下障害学Ⅰ ※

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名			担当授業科目名			担当授業科目名			担当授業科目名
									兼任	講師	上田 環理 (63) <令和4年4月> Master of Arts in Education (米國) ※ 英語 英語コミュニケーション
									兼任	講師	久保 浩明 (35) <令和4年4月> 修士(臨床心理学) 感情・人格心理学 ※
									兼任	講師	面高 有作 (39) <令和4年4月> 博士(心理学) 感情・人格心理学 ※
									兼任	講師	東江 裕美 (61) <令和4年4月> 修士(リハビリテーション) 言語発達障害学Ⅱ ※ 言語発達障害学演習Ⅱ ※

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
 ・ 認可申請書又は設置届出書の様式第3号(その2の1)に準じて作成してください。
 ・ 「認可時又は届出時」には、設置認可時又は届出時の教員全て(兼任、兼任教員を含む。)を黒字で記入してください。
 その上で、**雇員時又は届出時から変更となっている箇所は赤字としてください。**
 ・ 各欄の作成方法は「大学の設置等に係る届出書類作成の手引き」の「教員名簿」を確認してください。
 ・ 年齢は、**それぞれの年度の5月1日時点の満年齢**を記入してください。
 ・ 専任(専門職大学等は専、実専、実(研)、実(実)、兼任、兼任の順に記入してください。
 ・ 不要な年度(令和2年度開設であれば令和元年度)の表は適宜削除し、詰めてください。

(1) ②担当教員表に関する変更内容

【令和元年度】

--

【令和2年度】

特になし。

【令和3年度】

・社会福祉士養成の指定科目の変更により、兼任教員の一部変更あり。なお、5月1日現在での変更予定はなかったが、新型コロナウイルス感染症の影響により、授業開始時期が遅れるなど様々なことに起因し、兼任教員担当科目を中心に変更となった。
--

【令和4年度】

・2名の専任教員退職（教授1・講師1）に伴い1名を採用（准教授）し科目担当者の変更を行うと共に、兼任・兼任教員による担当変更等を行うことにより、授業等運営に影響はない。その他、大学共通に開講する科目など、オムニバス形式科目について兼任教員が多くなっている。
--

- (注) ・ 変更内容を箇条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
- ・ **既設で設置された学部等の専任教員を変更する場合は**、当該専任教員が授業を開始する前に必ず「専任教員採用等設置計画変更書」を提出し、大学設置・学校法人審議会による教員資格審査（AC教員審査）を受けてください。**AC教員審査を受けずに専任教員として授業等を担当することは出来ません。**
 - ・ 「専任教員採用等変更書（AC）」を提出し「可」の教員判定を受けている場合は「〇年〇月教員審査済」と記入してください。
- なお、設置認可審査時に教員審査省略となっている場合は、「教員審査省略」と記入してください。
- ・ 不要な年度（令和2年度開設であれば令和元年度）の表は削除せず、斜線を入れてください。

(2) 専任教員数等

(2) - ① 設置基準上の必要専任教員数

完成年度時における設置基準上の必要専任教員数	うち、完成年度時における設置基準上の必要教授数
12	12
名	名

(注) ・ 大学設置基準第十三条別表第一、短期大学設置基準第二十二條別表第一により算出される専任教員数を記入してください。

(2) - ② 専任教員等数【大学】

設置時の計画						現在(報告時)の状況					
教授	准教授	講師	助教	計(A)	助手(A')	教授	准教授	講師	助教	計(B)	助手(B')
6	3	3	0	12	0	5	4	2	0	11	0
(6)	(3)	(3)	(0)	(12)	(0)						
現在(報告時)の完成年度時の状況						現在(報告時)の完成年度時の計画					
教授	准教授	講師	助教	計(C)	助手(C')	教授	准教授	講師	助教	計(D)	助手(D')
6	4	2	0	12	0	6	4	2	0	12	0
[0]	[1]	[Δ1]	[0]	[12]	[0]	[0]	[1]	[Δ1]	[0]	[12]	[0]

(注) ・ 「設置時の計画」には、設置時に予定されていた完成年度時の人数を記入するとともに、()内に開設時の状況を記入してください。
 ・ 「現在(報告時)の状況」には、報告年度の5月1日の教員数(実人数)を記入してください。
 ・ 「現在(報告時)の完成年度時の状況」には、認可で設置された学部等の場合は、「現在(報告時)の状況」に記入した数字に、教員審査を卒業済みであり、完成年度までに就任する教員数を加えた数を、届出で設置された学部等の場合は、「現在(報告時)の状況」に記入した数字に、完成年度までに就任することが決定している教員数を加えた数を記入するとともに、[]内に設置時の計画との増減数を記入してください。(記入例：1名減の場合：Δ1)
 ・ 「現在(報告時)の完成年度時の計画」には、予定されている完成年度時の人数を記入するとともに、[]内に設置時の計画との増減数を記入してください。(記入例：1名減の場合：Δ1)

(2) - ③ 年齢構成

年齢構成		
定年規定の定める定年年齢(歳)	報告時(上記(B))の教員のうち、定年を延長して採用している教員数	完成年度時(上記(C))の教員のうち、定年を延長して採用する教員数
65	1	1
歳	名	名

(注) ・ 「年齢構成」には、当該学部における教員の定年に関する規定に基づく定年年齢(特例等による定年年齢ではありません)、及び、報告年度の5月1日現在、定年に関する規定に基づく特例等により定年を超えて専任教員として採用されている教員数及び完成年度時に定年を超えて専任教員として採用する教員数を記入してください。
 ・ なお、職位等によって定年年齢が異なる場合には、職位ごとの定年年齢を「定年規定の定める定年年齢」に二段書きで記入し、「定年を延長している教員数」には合算した数を記入してください。

(2) - ④ 設置時の計画に対する教員充足率

$$\frac{\text{現在(報告時)の完成年度時の状況(C)}}{\text{設置時の計画(A)}} = \frac{12}{12} = \boxed{100} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(2) - ⑤ 現在(報告時)の状況における定年を延長している教員構成率

$$\frac{\text{報告時の教員のうち、定年を延長して採用している教員数}}{\text{現在(報告時)の状況(B)}} = \frac{1}{11} = \boxed{9.09} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(2) - ⑥ 設置時の計画に対する助手充足率

$$\frac{\text{現在(報告時)の完成年度時の状況(C)}}{\text{設置時の計画(A)}} = \frac{0}{0} = \boxed{\#DIV/0!} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3) 専任教員辞任等の理由

(3) -① 専任教員の就任辞退（未就任）の理由及び後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	時期	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	就任辞退（未就任）の理由			
		該当なし								
合計 (D)				後任補充状況の集計 (E)						
就任を辞退した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)			①の合計数 (a)		②の合計数 (b)		③の合計数 (c)	
0	人	必修	0	科目	必修	0	科目	必修	0	科目
		選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
		計	0	科目	計	0	科目	計	0	科目

- (注) ・ 認可時又は届出時以降、就任を辞退した全ての専任教員の就任辞退の理由を具体的に記入してください。
 ・ 「就任辞退（未就任）」とは、認可又は届出時に就任予定としながら、実際には就任しなかった教員のことです。就任した後に辞任した教員は、以下「(3) -②専任教員辞任の理由及び後任補充状況」に記入してください。
 ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに就任を辞退した場合、赤字にて記入するとともに、「就任辞退（未就任）」の理由に就任辞退の理由等及び（ ）書きで報告年度を記入してください。
 ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」
 ・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」
 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(3) -② 専任教員辞任の理由及び後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	時期	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由			
1	教授	原 修一	R4.3	必修	基礎演習Ⅰ	①	R3.3.31付けで、本人の願いにより退職（4）			
				必修	基礎演習Ⅱ	①				
				選択	神経系の構造、機能、病態	②				
				選択	言語聴覚障害総論	①				
				選択	失語症Ⅰ	①				
				選択	失語症Ⅱ	①				
				選択	高次脳機能障害学	②				
				選択	発声発語障害学	①				
				選択	発声発語障害学演習Ⅰ	①				
				選択	発声発語障害学演習Ⅱ	①				
				選択	嚥下障害Ⅱ	①				
				選択	嚥下障害学演習	①				
				選択	言語聴覚障害演習Ⅰ	①				
				選択	言語聴覚障害演習Ⅱ	①				
				選択	言語聴覚障害演習Ⅲ	①				
				選択	学外評価臨床実習	①				
				選択	学外総合臨床実習	①				
				必修	専門ゼミⅠ	①				
				必修	専門ゼミⅡ	①				
必修	専門ゼミⅢ	①								
必修	専門ゼミⅣ	①								
2	講師	太田 栄次	R3.8	選択	英語	②	R3.8.31付けで、本人の願いにより退職（4）			
				選択	英語コミュニケーション	②				
				必修	基礎演習Ⅰ	①				
				必修	基礎演習Ⅱ	①				
				選択	言語学	②				
				選択	音声学	②				
				選択	言語聴覚障害診断学	②				
				選択	言語聴覚障害総論	②				
				選択	言語聴覚障害演習Ⅰ	①				
				選択	言語聴覚障害演習Ⅱ	①				
				選択	言語聴覚障害演習Ⅲ	①				
				選択	学外評価臨床実習	①				
				選択	学外総合臨床実習	①				
				必修	基礎ゼミⅠ	①				
				必修	基礎ゼミⅡ	①				
				必修	専門ゼミⅠ	①				
				必修	専門ゼミⅡ	①				
				必修	専門ゼミⅢ	①				
				必修	専門ゼミⅣ	①				
合計 (F)				後任補充状況の集計 (G)						
辞任した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)			①の合計数 (a)		②の合計数 (b)		③の合計数 (c)	
2	人	必修	14	科目	必修	14	科目	必修	0	科目
		選択	26	科目	選択	18	科目	選択	8	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
		計	40	科目	計	32	科目	計	8	科目

- (注) ・ 一度就任した後に、定年による退職以外の理由で辞任した全ての専任教員について記入してください。
 ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに辞任等した場合は、赤字にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等及び（ ）書きで報告年度を記入してください。
 ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」
 ・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」
 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(3) -③ 上記(3) -① ・ (3) -② の合計

合計 (D) + (F)			後任補充状況の集計 (E) + (G)					
辞任等した教員数	担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)		①の合計数 (a)		②の合計数 (b)		③の合計数 (c)	
2 人	必修	14 科目	必修	14 科目	必修	0 科目	必修	0 科目
	選択	26 科目	選択	18 科目	選択	8 科目	選択	0 科目
	自由	0 科目	自由	0 科目	自由	0 科目	自由	0 科目
	計	40 科目	計	32 科目	計	8 科目	計	0 科目

(3) -④ 設置時の計画に対する教員辞任率

$$\frac{(3) - \textcircled{3} \text{ 合計 (D) + (F)}}{(2) - \textcircled{2} \text{ 設置時の計画 (A)}} = \frac{2}{12} = \boxed{16.66} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3) -⑤ 令和3年度報告書から、新たに辞任等した専任教員等の状況

人

(注) ・ (3) -①、(3) -②で赤字で記載した専任教員数の合計数を記載してください。

(3) 一⑥ 定年により退職した専任教員に対する後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由			
		該当なし							
合計			後任補充状況の集計						
辞任した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)		①の合計数 (a)		②の合計数 (b)		③の合計数 (c)	
0	人	必修	0 科目	必修	0 科目	必修	0 科目	必修	0 科目
		選択	0 科目	選択	0 科目	選択	0 科目	選択	0 科目
		自由	0 科目	自由	0 科目	自由	0 科目	自由	0 科目
		計	0 科目	計	0 科目	計	0 科目	計	0 科目

- (注) ・ **定年により退職した全ての専任教員**について記入してください。
 ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに専任教員が新たに辞任等した場合、**赤字**にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等及び() 書きで報告年度を記入してください。
 ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

・ 専任教員が担当する(している)場合は「①」 ・ 兼任兼担教員が担当する(している)場合は「②」 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(4) 専任教員交代に係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

・ 2名の専任教員退職(教授1・講師1)に伴い1名を採用(准教授)し科目担当者の変更を行うと共に、兼任・兼任教員による担当変更を行うことにより、授業等運営に影響はない。なお、退職教員が関係したチューター学生についても説明等を行い、別の専任教員により対応を行っているため支障はない。
--

- (注) ・ 上記(3)の専任教員辞任等による学生の履修等への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能な限り具体的に記入してください。

6 附帯事項等に対する履行状況等

区 分	附 帯 事 項 等	履 行 状 況	今後の の実施計画
認 可 時 (令和元年)	該当なし		
設置計画履行状況 調 査 結 果 (令和2年)	該当なし		
設置計画履行状況 調 査 結 果 (令和3年)	該当なし		
設置計画履行状況 調 査 結 果 (令和4年)	該当なし		

- (注) ・ 「認可時」には、認可時または届出時に付された附帯事項（学校法人の寄附行為又は寄附行為変更の認可の申請に係る附帯事項を除く。）と、それに対する履行状況等について、具体的に記入してください。
- ・ 「設置計画履行状況調査結果」には、当該年度の調査の結果、**当該大学に付された指摘を**全て記入するとともに、付された指摘に対する履行状況等について、具体的に記入してください。その履行状況等の参考となる資料があれば、添付してください。
 - ・ 「履行状況」では、履行中であれば「履行中」、履行が完了していれば「履行済」を選択してください。
 - ・ 該当がない場合には、「附帯事項等」の部分に「該当なし」と記入してください。
 - ・ 「設置計画履行状況調査結果」には、当該調査の実施年度の年を記入してください。

7 その他全般的事項

<臨床心理学部 臨床心理学科>

(1) 設置計画変更事項等

設置時の計画	変更内容・状況、今後の見通しなど
<p>⑥ 教育方法、履修指導方法及び卒業要件</p> <p>(2) 履修指導方法</p> <p>毎年度、各学期開始時に学年別・学科別オリエンテーションを開催し、学生に学生便覧、シラバス、時間割、履修モデル等の資料を示し、前学期までの成績表と照らし合わせながら、卒業要件・資格取得に必要な科目、履修方法などについて具体的な説明と個別指導を行う。また、学科別オリエンテーションにおいては、学科教員が全員参加し、学部・学科の教育目標、教育課程の編成や実施方法等について学生に周知し、勉学に取り組む姿勢や態度などについてもあわせて指導する。さらに、全体のオリエンテーションに加えて、随時、事務窓口での職員による個別指導やチューター（基礎演習担当教員）による個別の指導・助言や、ラーニングサポートセンターでの学修相談などを行い、学生の適性や希望する進路に沿った、適切な履修ができるよう支援する。</p> <p>また、授業欠席や成績不振学生への対応策としては、授業を3回連続して欠席した学生の情報を各学科教員に提供し、早期に学修指導を行う仕組みを構築するとともに、GPA数値により、成績不振学生に対して保護者面談等の学修指導を行うなどの取り組みを行っている。</p>	<p>令和4年度も同様に、各学期開始時に学年別・学科別オリエンテーションを開催し、学生に学生便覧、シラバス、時間割、履修モデル等の資料を示し、前学期までの成績表と照らし合わせながら、卒業要件・資格取得に必要な科目、履修方法などについて具体的な説明と個別指導を行っていく。さらに、学科別オリエンテーションにおいても、学部・学科の教育目標、教育課程の編成や実施方法等について学生に周知し、勉学に取り組む姿勢や態度などについてもあわせて指導し、全体のオリエンテーションに加えて、随時、事務窓口での職員による個別指導やチューター（基礎演習担当教員）による個別の指導・助言や、ラーニングサポートセンターでの学修相談などを行い、学生の適性や希望する進路に沿った、適切な履修ができるよう支援する。また、授業欠席や成績不振学生への対応策として、授業を3回連続して欠席した学生の情報を各学科教員に提供し、早期に学修指導を行う仕組みを構築するとともに、GPA数値により、成績不振学生に対して保護者面談等の学修指導を引き続き行っている。また、新型コロナウイルスの感染リスクから学生並びにスタッフの安全を確保するよう努めるとともに、遠隔授業になった場合、教育の質を低下させないよう、専任教員および非常勤講師と事務室担当者での遠隔授業に関する打ち合わせを積極的に行い、昨年度の運用実績を活かして、トラブルなく円滑に進めて行く。</p>

(注) ・ 1～6の項目に記入した事項以外で、設置時の計画より変更のあったもの（未実施を含む。）及び法令適合性に関して生じた留意すべき事項について記入してください。

(2) 教員の資質の維持向上の方策（FD・SD活動含む）

<p>① 実施体制</p> <p>a 委員会の設置状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・九州保健福祉大学教育開発・研究推進中核センター 教育開発部門 (九州保健福祉大学教育開発・研究推進中核センター規程を別添添付) <p>b 委員会の開催状況（教員の参加状況含む）</p> <p>第1回 令和3年4月28日（構成員11名中 11名出席）</p> <p>第2回 令和3年7月15日（構成員11名中 11名出席）</p> <p>第3回 令和3年10月5日（構成員11名中 10名出席）</p> <p>第4回 令和3年12月1日（構成員11名中 9名出席）</p> <p>第5回 令和4年2月25日（構成員11名中 11名出席）</p> <p>c 委員会の審議事項等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大学共通基礎科目について ・FD研修会の開催について ・遠隔システムを活用した入学前教育の実施について ・授業アンケートの実施について ・授業参観の実施について

② 実施状況

a 実施内容

- ・FD/SD研修会・・・1回
- ・リメディアル教育・・・e-learningを使用して実施
- ・授業アンケート・・・各科目1回
- ・授業参観・・・感染症対策の対応により、組織的な実施は行っていない。
※ただし、遠隔授業への対応として、試験的に教職員の授業参加の取り組みを行った。

b 実施方法

- ・学内教員による研修
- ・授業評価アンケート・・・学習支援システムを活用しwebにてアンケート調査を行い、集計を行う。
- ・授業参観・・・教職員が自由に参観（遠隔授業への参加を推奨）

c 開催状況（教員の参加状況含む）

- ・令和3年度 第1回FD/SD研修会（令和3年9月8日開催 96名参加）
「遠隔授業の有効な活用～九保オリジナルを目指して～」
- ・心の健康に関する研修会
1回目 令和3年12月14日開催 36名参加
2回目 令和4年 2月16日まん延防止重点措置のため中止 録画視聴 69名視聴
- ・令和3年度 ハラスメント防止研修会（令和3年12月27日ウェビナー開催 121名参加）
講師 延岡総合法律事務所 弁護士 渡辺純一 先生

d 実施結果を踏まえた授業改善への取組状況

- ・授業アンケート・・・講義担当教員および各学部長・学科長へフィードバックし、集計結果を踏まえ
授業改善へ取り組んでいる。
- ・授業参観・・・教員が自由に参観（随時）し、授業改善へ取り組んでいる。

③ 学生に対する授業評価アンケートの実施状況

a 実施の有無及び実施時期

- ・前期および後期の期末に各科目1回実施

b 教員や学生への公開状況、方法等

- ・大学のホームページで公開している。（令和4年6月1日公開予定）

（注）・「①a 委員会の設置状況」には、関係規程等を転載又は添付すること。
「②実施状況」には、実施されている取組を全て記載すること。（記入例参照）

(3) 教育課程連携協議会に関する事項

※専門職大学、専門職短期大学、専門職学科、専門職大学院以外は「該当なし」と記入ください。

① 体制

a 委員会の設置状況

「該当なし」

b 委員会の開催状況（回数や開催日など）

「該当なし」

c 委員会の審議事項等

「該当なし」

d その他

「該当なし」

② 審議状況

a 審議した内容

「該当なし」

b 教育課程連携協議会が審議した内容を踏まえた大学での教育課程への見直し状況

「該当なし」

c 教育課程連携協議会が審議した内容を踏まえた大学での教育課程への反映状況

「該当なし」

(4) 自己点検・評価等に関する事項

① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見

臨床心理学部・臨床心理学科は、心理学、社会福祉学、言語聴覚障害学の知識を有し、現代人が抱える複雑な「こころ」の問題に幅広く対応することのできる人材を育成する目的で本年度開設された。入学した学生は、公認心理師、および心理学の知識を活用できる社会福祉士、言語聴覚療法士として社会に貢献したいと強く願っており、授業開始以来、強い目的意識を持って勉学に励んでいる。今後も本学部・学科の目標達成に向け、教員1人1人が学生ファーストの理念に立ち教育・研究活動に取り組んでいく。

② 自己点検・評価報告書

a 公表（予定）時期

- ・令和2年6月1日 公表
- ・令和3年6月1日 公表
- ・令和4年6月1日 公表予定

b 公表方法

- ・自己点検・評価報告書を大学ホームページ上に掲載

③ 認証評価を受ける計画

(専門職大学、専門職短期大学、専門職大学院については、機関別認証評価と分野別認証評価それぞれの受審計画について記載してください。)

公益財団法人日本高等教育評価機構の平成30年度大学機関別認証評価の結果、平成31年3月5日付けで「日本高等教育評価機構が定める大学評価基準に適合している」と認定された。これにより、2018年4月1日付けで正会員への加盟・登録が承認され、2025年3月31日までの期間認定された。なお、その際、評価報告書に【改善を要する点】として指摘された事項(1件)については、2021年7月末日に改善報告書をホームページに公表し、評価機構へ提出した。

(注) ・ 設置時の計画の変更（又は未実施）の有無に関わらず記入してください。

また、「① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見」については、できるだけ具体的な根拠を含めて記入してください。

なお、「② 自己点検・評価報告書」については、当該調査対象の組織に関する評価内容を含む報告書について記入してください。

(5) 情報公表に関する事項

○ 設置計画履行状況報告書（令和4年度）

a 公表予定の有無 [有 ・ 無]

《 a で「有」の場合》

b 公表（予定）時期 [調査結果公表後1ヶ月以内 ・ 公表後2～3ヶ月以内 ・ 公表後3ヶ月以降]

c 公表方法 [ウェブサイトへの掲載 ・ その他 ()]

《 a で公表「無」の場合》

d 公表しない理由 []

※設置計画が各大学等が社会に対して着実に実現していく構想を表したものであることに鑑み、

設置計画履行状況報告書については、各大学等のウェブサイトに掲載するなど、積極的な情報提供をお願いします。

九州保健福祉大学教育開発・研究推進中核センター規程

(目的)

第1条 九州保健福祉大学教育開発・研究推進中核センター以下「センター」という。)は、大学における教育の開発及び研究の推進を行うことにより、全学的な教育・研究活動の活性化を図り、併せて社会貢献に寄与することを目的とする。

(組織)

第2条 センターは、教育開発部門、研究推進部門、社会貢献部門からなり、次に示す構成員で組織する。

センター長	1名
部門長	3名
副部門長	3名
センター員	若干名

2 センター長、部門長及び副部門長の任命は理事長が行い、センター員の委嘱はセンター長が行う。

3 センター長、部門長及び副部門長の任期は2年とし、センター員の任期は1年とする。

(業務)

第3条 センターにおいては、次の業務を行う。

- (1) 大学及び大学院教育の内容・方法及びFD・SDの企画及び開発に関する事項
- (2) 大学及び大学院教員の研究推進に関する事項
- (3) 地域貢献及び国際貢献に関する事項
- (4) 教育研究活動等の状況の情報公表に関する事項
- (5) 各部門の総合的調整に関する事項並びにその他センター長が必要と認めた事項

(事務)

第4条 センターの事務局は、本学庶務部とする。

(その他)

第5条 この規程に定めるもののほか、センターに関する必要な事項は、別に定める。

附則

この規程は、平成17年4月1日から施行する。

九州保健福祉大学 教育開発センター規程（平成15年4月1日施行）は廃止する。

附則この改正規程は、平成22年12月1日から施行する。

附則この改正規程は、平成29年4月1日から施行する。